

新撰西洋史問答

岡野英太郎 編纂



③ 歴史ヲ東洋西洋ニ分テテ研究スル所以如何

世界文明ノ大勢東西兩洋ニ向ヒテ發達シ各其方面ヲ異ニシタルヲ以テ二者ノ間相隔離シテ交渉セザルコト久シク漸ク十六七世紀ニ至リテ東西兩洋ノ人種共ニ働クニ至リタレトモナホ二者共通ノ中心点トシテ考フベキモノナシコレ兩洋ニ分テテ研究スル所以ナリ

(三) 西洋史研究ノ順序如何

西洋人種ハ主ニありあん人種ナリ而シテ此ありあん人種ノ文明ハ遠クせみちつく族はみちつく族等ニ淵源セルヲ以テ此等ノ種族ノ繁盛ヲ來シタリシ埃及及ビあつしりや帝國等ノ上古史ヲ研究セザルベカラザルナリ次キテ波斯王ノ希臘侵略西羅馬ノ覆滅新世界ノ發見佛國ノ革命等ヨリ今代ニ至ラザルベカラズ斯クシタランニハヨク氣運變遷ノ一斑ヲ知ルノ便アラソ

(三) ありあん人種ノ五大別及コレヲ今日ノ各國ニ配合センコトヲ望ム

ありあん人種ハ希臘人種拉丁人種日耳曼人種あるト人種及ヒすらぶおにる人種ト云フサテ今ノ希臘ハ希臘人種ニシテ佛蘭西、伊太

第二編

太古史

(四) 埃及ノ地理及其古代ノ風俗ヲ記セ

埃及ハ亞非利加洲ニ属シテ其東北岸ナルナイル河ノ下流ニアリ此河ハ毎年夏秋ノ交河水氾濫シテ其近傍ヲ侵ス爲メニ沃土ヲ遺シテ翌年ノ収獲ヲ大ナラシム國王ヲフエーロトト稱シ無限ノ權力ヲ有

利、葡萄牙、等ハ拉丁人種日耳曼和蘭英吉利瑞典諾威丁抹等ハ日耳曼人種尤モ英吉利ノ一部ナルアイルランド、スコットランド、ウエールス等ハケルト人種ナリ而シテ露西亞波蘭等ノ人民ハスラヴオニア人種ヨリ來レルモノナリ

シ宗教ハ自然カノ崇拜ニシテ其僧侶ハ國民ノ最高位ヲ占メ武士商工及ビ牧者ハ其下ニ位セリ

(五) 埃及ノ古代ノ沿革ヲ述ベヨ

埃及ハ紀元前二千八百年ニ於テ既ニ開明ニ趣キタルモノ、如ク彼ノ今日ニ存スル金字塔ノ築造ハ多ク此時代ニ成レリソレヨリ凡四五百年ヲ經テ上埃及ナルシーブスニ移リ紀元前凡二千二百年頃マテハ頗ル盛大ニシテ螺旋堂尖形塔ノ建築アリタリシ其後國勢盛衰アリシガ紀元前凡一千二百年ノ頃國勢更ニ盛大ニシテ其版圖南ハイチオピヤ東ハ亞刺比亞北ハシリアフエニシヤ等ヨリ遙ニメソポタミアニ及ビタリキ彼ノ獅身像ハ此頃ノ作ナリ後一百年ヲ經テ首府ハ下埃及ニ移リ國勢漸ク衰ヒ紀元前七百三十年ニ至リテハイ

チオピヤ人ノ爲メニ征服セラレキ

(六) ヘブリユ一ノ盛衰ヲ記セ

ヘブリユ一ハ一ニスラエルト稱シレバノン山以西瀕海ノ地ニ住セルカナーン人種ノ中ニ居ヲ占メタリシガ紀元前一千五百五十年ノ頃ヨヨーゼフ全族ヲ率キテ埃及ニ移リシガ埃及人ノコレヲ遇スルコト苛虐ヲ極メタリケレバモーゼス其族ヲ率キテ亞刺比亞ノ内地ニ出テ終ニパレスタインニ居ヲ定メヌ其後モーゼスノ子シヨシユアカナーン族ノ内訌ニ乘シテコレヲ征服シ終ニ十二族ト定メテコ、ニ住セリ然レトモ十二族ノ團結鞏固ナラズ加フルニ四隣異敵ノ徒ノ侵來打チ續キ其國勢大ニ危カリキ紀元前一千〇五十年ノ頃高僧サミユール出テ、十二族ヲ合同シ次ニダヴキットヲ王トセリ

ダツキツト勇敢ニシテヨク四方ヲ壓服シ教異ノ教徒ヲ征討シテ府ヲゼルサレムニ定メヌ其威紅海ヨリダマスカスニ及ビタリキ蓋シヘブリユ一最盛ノ時代ナリ次ノ王ソロモンハフエニシヤト交際シテ相互ニ交通貿易シ宏大ナル禮拜堂ヲモ建築シ之ト共ニ異教ノ禮典ヲモ輸入シタリ是ニ於テ民心漸ク睽離シ其死スルニ及ビテハ北方ナル十族ハ皆國家ニ叛キテ別ニ國ヲ建テイスラエル王國ト稱シサメリアニ都シタリ是ニ於テ王家ニ屬スル者ハ猶太及ビペンジャミンノ二族ノミトナリグレバ國号ヲ改メテ猶太ト稱セリ是ヨリ猶太イスラエル兩國間ノ爭ヒ止ムトキナク且兩國內共ニ宗教上ノ爭亂アリテ國勢爲メニ大ニ衰ヘタリ

(七) ヘブリユ一ノ宗教上ノ功績ヲ述ベヨ

ヘブリユ一ノ祖先ハアブラハムニシテ此國民ハ常ニ畢生ノカラ盡シテ當時隣邦ニ行ハレタルバール教乃チ偶像崇拜者ヲ排斥シ唯一筋ニ神教ノミヲ信仰シタリキ蓋シ今日西洋諸國ニ行ハル、耶蘇教ノ起源トシテ其史上ニ特筆大書スベキノ事件ナリ彼ノ舊約全書ナルモノハ彼等ガ手ニシロニシタルトコロノ經典ナリキ

(八) フエニシアノ地勢ト其發達トヲ記セ

フエニシアハ地中海ノ東岸ニ瀕シテ岸ニ良港多ク沖ニハ島嶼ヲ望ミ左ハ埃及ノ沃野ニ連レリ國民多ク海運ニ從事シ地中海上交通ノ權ヲ握リケレバ其信仰セルバール教ヲ擴布スルニ於テ大ニ利アルトコロナリキ且此國民ハ其文字ノ聲音ニヨレルモノヲ發明使用シケレバ大ニ交通ノ便ヲ佐ケタリキ又此國民ハ諸種ノ工藝ニモ長シ

タリケレバ亦國運ノ發達ヲ佐クルコトモ多カリキ

(九) アツシリアバビロン兩國ノ地理及其興亡消長

ヲ記セ

テイグリヌユーフレーチス兩河ノ間北ヲメソポタミヤト云ヒ南ヲ
バビロニヤト云フサテメソポタミヤノ東ハアツシリアニシテバビ
ロニアノ西ハカルデアナリ土地肥沃ナルガ爲メ社會ノ發達著シ
カリキ紀元前二千五百年ノ頃バール教ヲ奉ズルセミチツク派ノ民
族來リテ此地ヲ畧シ遂ニバビロン國ヲ立テキ紀元前一千二百五年
ノ頃アツシリア人ハバビロン國ヲ滅ボシ引續キ兵ヲ四隣ニ出シテ
漸ク版圖ヲ擴メイラン、アルミニヤ、シリヤフエニシヤ等ヲ服
屬セシメキツギテバビロニアノ畔乱ヲ平ケ又ジュデアヲ助ケテイ

スラエルヲ滅ボシ遂ニ其與國タリシ埃及ヲモ攻メ從ハセ更ニ進ミ
テリデアヲモ服屬セシメキ然ルニ國內漸ク叛クモノアリリデア、
バビロニア及埃及ノ諸國マタ兵ヲ起シケレハ其首府ニテハ遂ニ陷
リ頗ル全盛ヲ極メタリシアツシリアモ此ニ亡ブルニ至レリバビロ
ニア獨立シテヨリ兵ヲ埃及ト交ヘ埃及王子コロノ爲メニ破ラレシ
ガ子ブカト子サル王ノ立ツニ及ビテ埃及ニ捷チ大ニ國威ヲ張リタ
リキサレド王ノ没スルニ及ビテ國力次第ニ衰ヒ遂ニ波斯ノ爲メニ
滅ボサレヌ時ニ紀元前五百三十八年ナリキ

(一〇) バビロン城ノ偉觀ヲ記セヨ

バビロン城ハバビロニア王子アカトネサルノ經營セル所ニシテユ
ーフレーツ河ニ跨リ外廓ノ壁ノ高サハ三百三十八英尺厚サハ八十

五英尺アリ其宮殿ノ宏大ナルコト今ノ英京倫敦ノ五倍ニ上リ世界古今ニ其比ナク其結構モマタ壯麗ニシテ人目ヲ驚カシムルニ足りキト云フ

(二) アツシリヤノ工藝技術ヲ述ベヨ

アツシリヤハヨク損杆轆轤等ヲ使用シテ水道隊道等ヲ作り建築術マタ發達シ其首府ニネベノ如キハ壯麗華美ヲ極メタリキト云フ彫刻ノ術モマタヨク發達シ殊ニ金銀玉石ノ彫鏤最モ盛ニ行ハレタリシモノ、如シ

(三) バビロニアノ文學工藝如何

バビロニア人ハ所謂楔形文字ヲ使用シテ天文數理ノ學ヲ究メ早ク既ニ晝夜平分ノ期ヲ知り且ツ日時計ヲ製シテ時間ヲ測リキト云フ

又農業工業ニ熟達シ建築術ハ其最モ長セル所ナリキ

(三) 波斯ノ地理及其人種ヲ問フ

波斯ハ裏海ノ南イラン高原ノ東部ニ屬ス而シテ其西部ヲメデアトス共ニゼンド語ヲ用ウルアリアン派ノ種屬ナリ

(四) 波斯史ヲ叙セヨ

波斯ハモトメデアニ屬セシガ紀元前凡五百六十年會長サイラス王ト稱シテ先ツメデアヲ攻メ滅ボシ次キテバビロンヲ併セ一時ニ強大トナレリサイラス王没スルニ及ビテガンバシース父ノ遺志ヲ紹キテ遠征軍ヲ起シ埃及ヲ平定セリガンバシース王没スルニ及ビテダライアス王立チ東印度ヲ征服シテ首府ヲサニ定メタリ此時其版圖頗ル廣大ナリケレバコレヲ別チテ二十洲トナシ州ゴト

ニ知事ヲ置キ其上ニ監察使ヲ置キテ頗ルカヲ内治ニ注キマタ城砦ヲ國境ニ築キテ蠻民ノ侵略ニ備ヘタリキ後兵ヲ希臘ニ出シテ未ダ志ヲ得ザルニ偶々埃及ニ叛亂起リシカバ遂ニ果タサバリキ紀元前四百八十五年王沒シテ其子クセキセス父ノ志ヲ紹キ大兵ヲ率キテ希臘ニ攻メ入りシカ却リテ大ニ其敗ル所トナリ國運次第ニ振ハスナリヌ

(五) 波斯人ノ特質及其教育ノ方法ヲ述ベヨ

斯波人ノ最モ尊ム所ハ所謂武士道ニシテ男子生レテ五歳ニ至レバ先ツ武術ノ教育ニ從事シ弓馬鎗劍ヲ專修シ且艱難ニ打テ勝ツノ習慣ヲ養ハシメ十五歳ニ至レハ皆軍務ニ服役スサレハ國民ミナ文事ヲ好マズ商工ヲ賤メリタゞ詩歌ハ不思議ニモ彼等ノ嗜ムトコロニ

シテフェルゾーンナル大詩篇ヲ殘セリ

第三編

上古史

(六) 上代ニ於ケル希臘ノ形勢如何

希臘ハ歐羅巴ノ東南ニアル半島ニシテ地中海中ニ斗出シ其沿岸出入多ク從テ港灣ニ富メルガ故ニ夙ニ埃及フエニシヤ等ノ開化ヲ輸入シタルノミナラズマタ小亞細亞ニ於ケルアイオニア人ハ東洋ノ文化ヲ本國ニ傳ヘタレバ學術技藝ノ發達最モ早クシテ文物大ニ進歩シタリキ

(六) 希臘ノ國名ノ起原如何

希臘國ノ内地ニハモトペラスシヤイト呼ハレシ人民コ、ニアリシガ後ヘリンスト自稱セシトコロノアリアン派ノ民族來リテ此地ヲ占領シヘラス國ト稱シタリシガ羅馬人コレニ名クルニ希臘國ヲ以テシタリ

(二八) 希臘ノ傳説時代トハ如何

希臘ニハ古代ノ物語トシテ傳ヘタルモノ種々アレドモ詩聖ホーメルノ史詩イリアット及オデッシノ二篇ハ最モ優美ニ當時ノ社會ヲ描キ出シタルモノナリ今コレニヨリテ稽フルニ當時既ニ幾多ノ小邦國ニ分レ皆上ニ世襲ノ王ヲ載キ王者ハ政教ノ權ヲ併有シ又事アルノ日ニアタリテハコレガ元師トナルノ制ナリ而シテ其下ニハ元老ノ顧問官アリ又民會アリテ王之ガ長トナリ人民ハ概テ丘陵ニ

住シテ縋ラスニ城壁ヲ以テシタリ當時貴族トテ未タ特別ノ階級ナク長者勇士ハ一般ニ尊敬セラレ一夫多妻風ヲナシ奴隸公行セラレテ戰時ニ得タル捕虜ハ皆コレニ當テラル宗教ハ豐富ナル想像力ヨリ煥發セラレタルモノニシテ優美ナル多神教ナリソノ重ナルモノハ十二神アリテオリムプス山ニ臨幸シ之ヲオリムプス神ト云フ凡テ神祇ハ山海ノ間ニ住シテ人間モコレト言語ヲ交フルコトヲ得ルモノトセラレタリ

(二九) 希臘ノ三大部トハ如何

地ノ形勢ニ從ヒ國中ヲ北中南ノ三大部ニ分テラル云フナリサテ北部希臘ハテッサリーエビルスノ二州ニシテ中部ハ九州ヨリナリアツチカ最モ其主要部ナリ即チ今ノアゼンヌ府ノアル所ナリ南部ハ

一ニコレヲペロポネサスト云ヒ七州ヨリナル中ニツキテラコニア最モ著ハル即チスバルタ府ノ所在ナリ

(三〇) 希臘人ノ遷移トハ如何

希臘ハドリリア人アイオニア人エオリア人ノ三種屬アリシガドリリア人ハテッサリノ北部ニ居住シタリシガ紀元前一千一百年頃エピルスヨリ來レルモノ、爲メニ逐ハレテロクリス州ノドリルスニ住セリ然ルニ人口漸ク繁殖シケレバ南進シテペロポネサスノ南部或ハ東部ヲ征服シテ此ニ據レリサレバ以前ヨリコ、ニ住居シケルアケイア人及エオリア人ハ其北隅ニ遁レ又コ、ニハ既ニアケイア人アリケレバ此種屬ハ今ノアケイアノ地ヲ占メ今ノアケイアノ地ニ住シタルモノハ更ニ去リテアツチカ及ビ多島海ノ諸島ニ遷移シタリ

(三一) オリンピアノ大競技ヲ記セ

オリンピアノ大競技ト云フハヨニス神ニ奉納スル爲メニ行ノ處ノ大祭ニシテ四年毎ニ一回各國皆コレヲ行ハザルトコロナシ爲メニ全種屬ノ統一サヘ鞏固ナラシムルコトヲ得タリ

(三二) スバルタノ尙武的訓練ヲ記セ

一、源因

ドリリア族ガペロポネサスニ進入シテアケイア族ヲ征服セシヨリ市ヲスバルタニナスヤ少數ノ征服者ハ多數ノ被征服者ニ對スルノ方策ナカルメカラズ即チ勇武ニシテ公共心ニ富メル人民ヲ作ラザルベカラズ

二、方策

ライクルグスナルモノ意ヲ前項ニ注キテ法制ヲ定メ身体ノ強健ヲ要スルガ爲メ婚姻ニ干涉シテ政府之ヲ監督シ生兒モ亦政府之ヲ檢査シテ其羸弱ナルモノハ之ヲ山間ニ放棄セシメ強壯ナルモノ、ミヲ哺育セシメタリ而シテ男子ハ既ニ七歳ニ至レハ政府ノ監督ノ下ニ体育ノ訓練ヲ習ヒ二十歳ニ達スルマテ營舎ニ起臥セシメ公共ノ食堂ニ飲食セシム

(三) スバルタ市民ノ勇悍ヲ記セ

スバルタ市民ハ嚴格ナル尙武的訓練ヲ受ケタリケレバ勇悍ニシテ愛國心ニ富ミ紀元前七百年代ニ至リテハメツセニアヲ服従セシメ續キテアルゴスヲモ征服シテ全クペロポソネサスヲ從屬セシメ進

ンテ全希臘ノ盟主タラントスルノ勢ヲナスニ至レリ

(四) アゼンス古代ノ政治トソロンノ新憲法トヲ記セ

アゼンスハアツチカナルアイオニア族ノ首トシテ領セル所ナリ古來ノ政治ハアリアン族ノ侵入ト共ニ廢セラレアルコト云ヘル統領ヲ置キテ其國ヲ管理シ復王ヲ戴カズアルコンハ其初メ王族ヨリ一人ヲ選ビ終身其職ニ居ラシメシガ後其在職ヲ一年トシ人員ヲ九人ニ増シコレヲ貴族全体ヨリ選舉スルコト、ナセリサレバ平民ハ更ニ參政ノ權利ナク且ツ成文律ナキヲ以テ貴族ハ權ニ平民ヲ壓制シ專横至ラザル所ナカリケレハ平民ノ不平漸ク多ク紀元前六百二十四年ドラコ出テ、法律ヲ作りケレドモ其法慘酷ニ失シ却テ人民ノ不幸ヲ益シケレハ怨嗟ノ聲益々天下ニ滿チ遂ニ政令ヲ奉ズルモ

ノナグ殆ト無政府ノ姿ヲナセリ紀元前五百九十四年ソロンアルコ
 ントナリテ評議會民會ノ制ヲ定メ以テ一般市民ニ政權ヲ分配シ所
 有地ノ多寡ニヨリテ市民ガ參政ノ權利ト兵役納稅ノ義務トニ差等
 ヲ設ケ且貨幣ヲ鑄造シテ平民ノ貴族ニ對スル負債償却ヲ便ニシタ
 リ是ニ於テカ平民モ少シク心ヲ伸フルヲ得タリトイヘドモ黨爭ナ
 未ダ止マザリシ

(三五) クリスセテスノ制ヲ記セ

アゼンス再ビ乱ル、ニ乘シテアラメオニーデ家ノ一門スバルタ人
 ノ援助ヲ得テアゼンス入り其宗主クリスセネスヲアルコントシケ
 ルガクリスセテスハ貴族ト平民トノ軋轢ヲ調和シ且ツ再ビ僭主ノ
 出ツルヲ防ガンタメオストラシヅムナル秘密投票ノ法ヲ設ケ國中

ヲ十個ノ種族ニ分チ各一族ヨリ五十名ツ、ノ代議員ヲ出タスコト
 、ナシ純粹ナル民主政治トナセリ

(三六) 希臘ト波斯トノ戰ノ顛末ヲ問フ

原因

アゼンスノ盛時ニ先チ波斯隆盛ヲ極メ小亞細亞ニ於ケル希臘殖民
 地モ皆其有トナリシガ紀元前五百年ノ頃小亞細亞ニ於ケルアイオ
 ニア殖民地ノ内ナルシレトス叛ヲ謀リケリアゼンス人ハ其同胞タ
 ルヲ以テ兵ヲ出シテコレヲ援ケ波斯領ナルリデアノ首府サルデ
 ースヲ襲フテ之ヲ焚ケリ之ヲ聞ケル波斯王ダリユースハ大ニ怒リ
 テ兵ヲ希臘ニ出スニ至レリ時ニ紀元前四百九十二年ナリ

戰闘

波斯王ノ女婿マルドニース大軍ヲ率キテ希臘ニ臨ム途上颶風ニ遇
 ヒ船艦破壊ノ空シク歸國ス王大ニ怒リ親ラ大軍ヲ率キテ希臘ニ臨
 ムアゼンヌノ將ミルテアデス之ヲマラソンノ野ニ逆ヒ大ニ波斯ノ
 軍ヲ敗ル王終ニ遁レ走ル時ニ紀元前四百九十年ナリ
 波斯王死シテ其子クセルキセス王位ニ登リ父ノ志ヲ紹キ大軍ヲ發
 シテマタ希臘ニ臨ムスパルタ王レオニダスコレトセルモビレニ戰
 フテ大敗シ兵士三百人悉ク戰没ス時ニ紀元前四百八十年ナリ
 波斯軍ハ勝ニ乘シテアゼンヌニ向フアゼンヌノ將セミストクレス
 薄暮風浪怒濤ノ時ヲ以テ波斯ノ海軍ヲ襲フ波斯軍其備ナキヲ以テ
 大ニ破ル時ニ希臘ノ諸邦兵ヲ出シテアゼンヌニ應ジ波斯ノ軍ヲブ
 ラテアニ破ル波斯ノ司令長官タリシマルドニースコ、ニ戰死ス

此時小亞細亞ノ沿岸ニ於テモ波斯ノ軍ト戰ヒタルアゼンヌノ海軍
 大捷ヲ得タリ

結果

アゼンヌハ其沿海ノ諸市府トデロス同盟ヲ結ヒ各國財ヲ醜出シテ
 之ニ備ヘ益々海軍ノ擴張ヲ謀リ紀元前四百六十六年ヲ以テ波斯人
 ヲ全ク歐洲全土ヨリ馳逐シタリ紀元前四百四十九年更ニ波斯ト希
 臘トノ境界ヲ確定シ全ク二國ノ交渉ヲ絶テリ

(三七) アゼンヌ最盛時代ノ景況ヲ記セ

アゼンヌハ波斯軍ニ勝チシヲ以テ其勢旭日ノ天ニ上ルガ如ク同盟
 諸邦モ皆其屬國ノ如クナリヌ且常時ノ執政ベリクレスハ制度ヲ改
 革シテ一層民主的トナシ文學技藝ヲ獎勵セシカハ燦然タル文華ノ

光彩ヲ放チ建築ニハドリアン式發達シアクロボリスナルアシーナ
 神社ニ其標本ヲトメファイギアスノ彫刻ハ其神像ニ不朽ノ美ヲ遺
 セリ而シテコリンシアン式ハ此頃ヨリ漸ク流行ノ運ニ向ヘタリキ
 エスキラス、ソフォクリス、ユーリピヨユスノ悲劇アリ又アリス
 トフアニースノ喜劇モ此時ニ出テ史家ニハヘロドタス及ビシユ
 シヂャユスアリ哲學家ニハプロタゴラスノ如キ能辨家アリタリキ
 (二〇) ペロポン子サスノ戦争ヲ記スベシ
 原因其一(遠因)
 アゼンスノ隆盛ニ赴クヲ以テスパルタノ嫉ヲ買ヒタルコト
 アゼンスガ同盟諸邦ニ對シテ倨傲ナリシコト

原因其二(近因)

コリンスト其殖民地トノ爭論ニアゼンス干涉ヲ試ミ殖民地ヲ佐ケ
 テコリンストヲ挫カントセシコト

戦闘其一

コリンスハ自ラアゼンスノ敵手タラサルヲ知リケレハ援ヲスパル
 タニ請ヘリ是ニ於テスパルタハペロポン子サスノ諸州ヲ同盟シテ
 宣戦ヲ公布シ紀元前四百三十一年アゼンスニ進軍シ到ル處ヲ蹂躪
 セシニアゼンス亦海軍ヲ以テペロポン子サスノ沿岸ヲ抄掠セリ

休戦

アゼンスノ執政ペリクレス疫ヲ病ミテ死シスパルタ王アラシダス
 モ亦戦死セシカバ紀元前四百二十八年二國遂ニ相議シテ休戦セリ

戦闘其二

當時ニアゼンスニアルシピアデスナルモノアリ自ラ兵ヲ率キテス
 パルタノ同盟國タルシ、リー島ノシラキユースヲ襲フスバルタ軍
 マタ之ト戦ヒ大ニ破リテアツチカニ上陸シアゼンスヲ圍メリ
 結果

紀元前四百〇四年アゼンスハ遂ニ陷落シ城廓船艦ハ破壊セラレ同
 盟ハ解散セラレヌ是ニ於テ再ビ貴族制トナシ三十名ノ評議員ヲ設
 ケテ政治ノ改良ヲ謀リシモ漸ク衰微シテマタ舊時ノ觀ナキニ至レ
 リ

(三九) ペロポンチサス戦争時代ノアゼンス府ト三大
 哲學者トナ記セ

ペロポンチサスノ戦争アルヤアゼンスハ其道德壞敗シテ所謂詭辨

家ナルモノ横行セリ大哲學者ソクラテスハ大ニコレヲ説破シ世
 道人心ヲ警醒セシモソクラテスハ國神ヲ信セズシテ少年ヲ誘惑ス
 ルモノナリトノ誣告ヲ受ケ遂ニ毒殺セラル、ニ至リヌ其門弟アラ
 トー更ニ一層高尚ナル哲理ヲ説キテ師説ヲ明カニシ次キニアリス
 トーツル其門ニ出テ俱ニ希臘哲學ノ光彩ヲ煥發シ今日諸科學ノ基
 礎ヲナセリ

(三〇) スバルタトセベストノ軋轢ヲ記セ

スバルタハアゼンスヲ破リテ益々勢力ヲ益セルカ上ニアゲシラス
 王ノ時ニ及ビテ當時波斯領タリシ小亞細亞サヘ伐チ威力ヲ擅ニシ
 ケリ時ニセベス及ビコリンス等ノスバルタヲ來リ侵スニ遇ヒ又是
 ト戦ヒシガ終ニ和睦シテアンタルシダスノ條約結ラベリ然ルニス

バルタハ獨リ威カヲ弄セシカバセベスマタ兵ヲ起シテスバルタニ反枕セリスバルタ乃チ軍ヲ進ヌテセベスヲ陥ル時ニセベスニ二人ノ名士アリエバミノンダス、ペロヒダスト云フ二人協力シテスバルタノ軍ヲリユークトラニ破リ更ニヘレン同盟ヲ組織シテスバルタヲ困ミマンチニアノ一戰ニセベス大捷ヲ得タリサレドエバミノンダスハ不幸ニモ此役ニ戰死シペロヒダスハ既ニ先ニ死シタリケレハセベスノ軍マタ振ハズナリススバルタモマタ其王アゲシラースノ没セシヨリ其威大ニ衰ヒヌ

(三) マゼドニアノ覇業ヲ記セ

スバルタノ衰フルニ及ビテマゼドニア代リテ希臘ノ盟主トナレリマゼドニアハ純粹ノ希臘民族ニアラザレトモ歷代ノ王皆熱心ニ

希臘ノ文物ヲ輸入シヒリツプ王ニ至リテ大ニ軍備ヲ擴張シ威ヲ中央希臘ニ振フニ至リケレハアゼンスハセベスト同盟シテコレニ抗セシカドモ紀元前三百三十八年クローニアノ役ニ大敗シタリケレハヒリツプ王ハ更ニ進シテペローポニサスヲ侵略シコリンスノ列國會議ニ於テ希臘全國ノ盟主トナリヌ

(三) アレキサンダーノ波斯征服ヲ記セ

マゼドニア王ヒリツプ二世波斯ヲ伐タントセシカ未タ軍ヲ出ササルニ臣下ノ爲メニ殺サレケレバ其子アレキサンダー其志ヲ紹キ三萬五千ノ大軍ヲ率キヘレスポントノ海峽ヲ渡リ先ツ小亞細亞ニ侵入シテ波斯ノ軍ヲグラニクスノ河畔ニ破リ先ツ地中海ニ沿ヘタル波斯領ノ地ヲ略シ轉シテ埃及ニ入り更ニ進ンテシリヤニ入ル是ニ

於テ波斯王ノ率キタル大軍ト交戦シ波斯王ヲシテ和議ヲ乞フニ至
ラシムアレキサンダーコレヲ許サズ直チニ波斯ノ内地ニ侵入シチ
グリヌ河ノ畔ナルゴーガメラニ於テ波斯ノ大軍ヲ撃破シ遂ニ波斯
全土ヲシテ己ガ版圖ニ皈セシメヌ

(三三) アレキサンダーノ波斯經營ヲ述ブベシ

波斯全土ノ己カ版圖ニ入ルヤアレキサンダーハコレヲ希臘ト併セ
テ一大帝國ヲ建設セントスルノ志ヲ起シ、カバ波斯ノ民心ヲ得ン
コトヲ務メ自ラ波斯ノ衣冠ヲ着ケ波斯王ノ女ト結婚シ且ツ波斯人
ヲ採用シテ官吏若クハ軍兵トナシ、モノモ少カラザリヤ然レモ事
未タ成ラサルニバヒロン城ニ歿シタリ時ニ年三十三

(三四) アレキサンダーノ印度侵入ヲ記スベシ

アレキサンダーハ波斯ヲ得タルヲ以テ足レリトナサズ其領地ヲ擴
メントシテアフガニスタンを經テ印度ニ入リインドス河畔ナル諸
侯王ヲ從ヘ更ニ東行セントシタリシガ其師遠征ニ疲勞シテマタ進
ムベカラザルニ至リシカバ止ムヲ得ズシテ師ヲ班スニ至リタリキ

(三五) アレキサンダー歿後ノ形勢如何

アレキサンダー歿シテ其嗣ナカリケレハ麾下ノ將士ハ互ニ相争ヒ
テ四個ノ王國ニ分裂セリ乃チマセドニア、スレース、シリア及ビ
埃及ノ四部コレナリ

(三六) 埃及ノトレミー朝ヲ記セ

トレミートハアレキサンダーノ將ナリアレキサンダーノ歿スルニ
及ビナトレミーハ埃及ヲ領シテコ、ニ君臨シ子孫相嗣クコト二百

餘年ニ及ベリ中ニツキテトレミー三世ハ文學技藝ノ獎勵商業貿易ノ保護ニカヲ盡シ、カバアレキサンドリアハ爲メニ學術及商業ノ中心トナリトレミーノ地理學ユークリッドノ幾何學皆實ニ此處ニ出テタリ

(三七) 希臘ノ衰微ヲ叙スベシ

アレキサンダーノ歿後マセドン覇主トナリ威ヲ全國ニ振ヒケルガスバルタハ舊時ノ勢力ヲ挽回シシテコトヲ務メ更ニマタアケイア同盟ナルモノアリ互ニ潰離シテ兵ヲ交ヘケルガアケイア同盟モ遂ニ衰ヒ漸ク羅馬ヲシテ全國ヲ壓服セシムルニ至リタリ

(三八) 伊太利ノ地勢ト其人種トヲ記セ

伊太利ハ歐羅巴洲中央ノ半島ニシテ三面地中海ニ面セリ而シテ

ペナイン山脈國中ニ貫通セリ地勢ニヨリテ國內チ三大部ニ分チボ
 一河以北半島部ノ外部ニアルヲ上伊太利トイヒケルト種ノブール
 人コレニ住シ半島部ノ北半ヲ中部伊太利トイヒチベル河コレヲ貫
 通シ所謂羅馬府ノアルトコロニシテ外ヨリ移殖セシエールスカン
 人及ビ土着ナルサベリ人アリチベル河畔ノラテン種ハ種族數多ノ
 混合ヨリ成リタルトコロノモノナリ次ニ下伊太利トイフモノハ半
 島ノ南部コレナリ

(三九) 羅馬府ノ起源ヲ問フ

上代ノ事ヲ得テ知ルベカラサレドモ紀元前七百五十三年アルバン
 ガノ王チベル河ノ左岸ナルバラチン山ニ城壁ヲ築キタリキコレ羅
 馬府ノ起源ナリ

(四) タールクキン王時代ノ出來事ヲ問フ

タールクキン王ハ暴虐ニシテ人民ヲ苦メケレハ羅馬市民ハ大ニ激昂シ遂ニ王ヲ廢シテ共和政治トナシ年コトニ貴族ヨリ二人ノ執政ヲ選ビテ政ヲ執ラシメヌコレ實ニ紀元前五百十年ノ事ナリ

(四) 前題後ニ於ケル貴族ト平民ノ軋轢ヲ記セ

共和政府ハ建テラレタレドモ貴族ノ專横ハナホ王政ニ超エタリケレバ貴族ト平民トノ軋轢漸ク起リ遂ニ爭鬪ヲナスニ至レリ特ニ小地主及借地人ハ公有地分配法ノ偏頗兵役制度ノ不公平及ビ負擔法ノ苛酷ニシテ奴隸ノ域ニ陥ルモノ多キヲ怨ミ紀元前四百九十四年遂ニ意ヲ決シテ貴族ト分離センコトヲ謀ルニ至レリ是ニ於テ貴族モ漸ク讓歩シテ平民ヨリ二人ノ保民官ヲ撰出スベキヲ定メヌ其後

平民ノ權利ハ次第ニ増加シ紀元四百五十年前十二銅標ノ法律ヲ編纂セラレヌサレト兩族ノ軋轢ハナホ未ダ止ムニ至ラザリシガ端ナク平民ノ權利ヲ増スニ至リヌソハ他民族トノ戰爭コレナリ何トナレハ兵役ニ從事スルモノハ多クハ平民ナリケレハ其戰勝ノ餘勢ト一般人民ノ輿望ハ茲ニ集リタレバナリ是レガ爲メ紀元前三百六十七年ヲ以テライシニアスノ改革案ハ難ナク通過シ執政ノ一人ハ必ズ平民ヨリ撰ブコト、ナリ公有地使用法及負債者救濟法モ確定シタリ爾後兩族ノ爭ハ次第ニ減少シ政治ノ中樞ハ元老院ニ歸スルコト、ナリヌ

(四) ゴール人ノ羅馬侵入ヲ記スベシ

羅馬ノ漸ク其勢ヲ得ルニ至リテ伊太利ノ北部ニ住セシゴール人ハ

軍兵ヲ南下シテエトルリアヲ蹂躪シ更ニアルリアニ在ル羅馬人ヲ破リ遂ニ進ンテ羅馬府ニ至レリ羅馬市兵ヨク戦ヒタレトモ彼ガ爲ノニ市街ヲ焚カレ其牙城ヲ圍マレヌサレド羅馬市兵ハ重圍ノ内ニアリテ屈セザルコト七月ニ至リケレハゴールモ遂ニ長圍ニ倦ミ價金ヲ得テ兵ヲ班セリ

(四) 羅馬ノ伊太利全國ヲ一統セシコトヲ問フ

羅馬ハ内ニ民主政治ノ成ルト共ニ外部ニ向ヒテ其勢威ヲ振ヒ殆ト伊太利全土ヲ從ヒタレドモ唯南方ナル希臘殖民地ノミ其令ニ從ハサリキ是ニ於テ羅馬ハ兵ヲ希臘殖民地ニ出シヌ殖民中ノタレント△ハ其羅馬ノ敵ニアラザルヲ知り援ヲ希臘ノエピルス王ピルスニ請ヘリ紀元前二百八十年ピルス王タレントムヲ援ケテ出兵シ以テ

羅馬兵ヲ破レリ其翌年マタ羅馬ヲ破リマカゴール人遂ニ希臘ニ侵入シケレバピルス遂ニ兵ヲ班セリ後ピルス王マタ兵ヲ伊太利ニ出シ、ガ羅馬ハカーセーデ王ト共ニ之ヲ擊退シ南伊太利モ遂ニ羅馬ノ領スルトコロトナリ是ニ於テ伊太利全土皆其命ヲ奉ズルコト、ナリヌ

(四) ピューニツク役トハ如何

此役ハ三段トナスヲ得先ツ第一ナルピューニツク役ヨリ説カン
第一ピューニツク役ノ原因

羅馬トカーセーデトノ勢力ノ衝突

羅馬ハ伊太利ヲ一統シテ勢威遠ク隣邦ニ振ヒケルガカーセーデモマタ地中海中ノ諸島及ヒ西班牙ノ一部ヲ領シ其領地ノ廣大ナ

ルコト亞非利加洲中ニ於テモ三百有餘ノ都貢ヲ是ニ出シタリト云フ程ナリキ

全上導火線

羅馬兵メセナニ於ケルカーセーデノ守兵ヲ追フ

全上戦争

紀元前二百六十四年戦争ハ開カレヌイーゲチスノ海戦ハ大ニカーセーデノ軍ヲ敗リ又戦フベキ勇氣ナカラシメヌ

全上結果

紀元前二百四十一年カーセーデハ其領地ナルシ、リ島ヲ出シテ羅馬ノ領地トナシヌ羅馬ハ此餘勢ヲ以テコルシカ、サルヂニア等ノ諸島ヲ奪ヒ又ゴール人ヲモ追ヒヌ

第二ピユーニツク役ノ原因

第一ピユーニツク役ノ復讐

カーセーデノ名將ハミルカルバカスノ長子ハンニバル其兵ヲ調シゴール、希臘、マセドン等ノ協力ヲ得テ伊太利ニ至ル

全上戦争

トラスシメヌス湖畔ノ大戦ニ羅馬軍塵殺セララル

アプリアノカンチニ於テ羅馬兵マタ大ニ破レ羅馬府將サニカー

セーデノ爲メニ襲ハレントス

シラキユース、マセドニア及ビ伊太利ノ諸府モマタ兵ヲ羅馬ト

交ントシ宣戦スルモノ少カラズ

羅馬ノ將コルチリユースシビオ兄弟先ツ西班牙ニ侵入シ更ニ

カールセーザノ本國ヲ衝キ大勝ヲ博シタリ
 ハンニバル兵ヲ斑シテ本國ニ歸リコルチリユースシビオ兄弟ト
 大ニザマニ戰ヒ頗ル羅馬兵ノ爲ニ陷ラル
 是ヨリサキマセドニアハ羅馬同盟軍ノ爲ニ犯サレシラキユース
 ハ羅馬兵ノ爲メニ陷ラル

全上結果

紀元前二百〇一年カールセーゾハ羅馬ト和睦シ西班牙及ビ地中海
 ニ於ケル領地ヲ羅馬ニ讓リ又羅馬ノ許諾ナクシテ兵ヲ外國ニ交
 ヘザルコトヲ約シヌ

全上餘響

紀元前百九十七年希臘ヲ佐ケテ其獨立ヲ宣言セシメヌ紀元前百

八十九年シリアニ交渉シテトラス山以西テ取り紀元前百六十八
 年マセドニアヲ滅ホシタリ

第三ピニーニツク役ノ原因

只羅馬ノボルキース、カトー等ノカールセーザハ必ズコレヲ滅サマ
 ルベカラズト主張セルニヨルノミ當時カールセーザハ羅馬ニ抵抗ス
 ルノ力ナキヲ以テ盡ク其武器軍艦ヲ獻シ五十年間租稅ヲ羅馬ニ納
 ムルヲ約シ其他頗ル謙遜ナル條件ヲ以テ哀ヲ羅馬ニ請ヒタリシガ
 カトー等コレヲ聽カズ是ニ於テカールセーザハ公力ヲ盡シテ羅馬ニ
 抗セント決シ重圍ノ内ニアルコト四年今ヤ船ナシ同盟ナシ武器亦
 盡キタリサレハ婀娜タル女子ハ其頭髮ヲ斷チテ弓弦ヲ作り子ハ
 心血ヲ注キ老幼一處シテ敵鋒ニ當リタレトモ紀元前百四十六年其

市城遂ニ陥リ七十萬ノ市民ハ此時概テ戰死シヌ

(四) 羅馬ノ強盛ヲ記スベシ

羅馬ハモト一小市タリシガ漸ク膨脹シテ其版圖地中海ヲ超エテ亞非利加洲ニ及ビ世界一切ノ富ハ皆コ、ニ向ヒテ流入シ世界ノ耳目ハ盡ク伊太利ニ集注セザルハナシスカレハ羅馬人ハ到ル處ニ恭敬優待ヲ受ケザルハナク從ヒテ大ニ華奢ノ風ニ長セリ又希臘ノ文學技藝此地ニ入り來リテ學者文人美術家等ヲ出シ詩人ニハエンニース、プラーツス、テレンチース等散文家ニハカトー氏最モ有名ナリキ

(四) 羅馬市民ノ腐敗ヲ記セ

羅馬ハ隆盛ノ極ニ達スルト共ニ彼ノ勇敢剛毅ノ風漸ク消耗シ風儀紊

乱人心ノ懦弱賄賂ノ公行、奴隸ノ増加等ヨリ世界ノ都會ヲ以テ誇レル羅馬府ヲシテマター大不幸ニ沈淪セシムルニ至リタリキ

(四) グラツクス兄弟ノ主義ト事業トヲ記スベシ

羅馬ノ強大ナルニ至ルヤ富者ハマス、貧者ハマス、富者ハマス、貧者ハマス、其懸隔遂ニ甚タシキニ至リケレハチペリーヌ、グラツクスハ大ニ奮起シテ其弊ヲ救ハントシ紀元前一百三十三年進ンテ護民官ニ上リ土地當分ノ說ヲ唱道シ一人ノ所有スベキ公地ヲ一定シ之ニ超ユルモノハ沒收シテ貧者ニ分配セント企テタリサレハ官人等大ニ激昂シ陰險ナル手段ヲ以テグラツクス及ビ其徒ヲ殺セリグラツクスノ弟カイウス、グラツクスマタ護民官トナリ兄ノ志ヲ紹キテ土地平分ノ說ヲ唱ヒ更ニ進ンテ伊太利人ヲシテ悉ク羅馬市民ト同等ノ權

利ヲ得セシメントセシカバ富人黨マタ襲ヒテ其徒ヲ戮セリグラツクスハ逃レントシケルガ途ニテ自殺シヌ

(四八) シユルヲトマリーストノ人トナリナ記セ

シユルラハ富人黨ノ黨魁ニシテマリースハ貧民黨ノ代表者ナリマリース北方蠻民ノ來襲ヲ破リテ羅馬ノ危急ヲ救ヒヌピヤノユグルタヲ破リテ之ヲ擒ニシ又キンプリ戦争ニ大功ヲ立タル大將ナリキシユルラハ同盟諸國ノ叛亂ヲ平定シ又亞細亞諸國ヲ平定シテ羅馬ニ當ラントスル所ノポンツス王ヲトリダテースヲ破リ其勢力マリースノ上ニアリ爾後尚黨ノ争鬪マス、甚タシカリシガ途ニマリース死シテシユルラ終身ノ執政トナレリ

(四九) 羅馬ノ三頭政治トハ如何

シーザル、ポンペース、クラツシースノ三名ノ合議制ヲ云フナリ始メポンペースハ富人黨シユルラノ裨將タリシガ其死スルニ及ビテ富人黨ノ領袖トナリ次キテ執政ニ上レリサテ當時地中海中ニ徘徊セル海賊多カリケレハ出テ是ヲ剿滅シ更ニポントスヲ討チテ屬邦トナシ又シリアヲ征服シテ羅馬ノ版圖トナシ此間ヲ以テパルシアト和ヲ講シバレスタイノ内治ニ干涉スル等頗ル勢力ヲ得テ羅馬ニ凱旋シケルガ是ヨリサキ羅馬ノ黨争マタ益々甚シククラツシース、シーザル、カチリン等ノ黨派ヲ出シテ相鬪キシガカチリンハ反逆ヲ謀リテ殺サレポンペースハ事ヲ以テ自黨ニ疎セザラレケレハ逐ニシーザル、クラツシース及ビポンペースノ三人茲ニ聯合シテ政權ヲ執ルコト、ハナレルナリ

(五〇) シーザルノ小傳ヲ記セ

シーザルハ貧民黨ノ代表者ヲ以テ稱セラレタルマリウスノ甥ナリ
 三頭政治ノ成ルヤシーザル其翌年ヲ以テ執政ニ上リ期滿テテ出テ
 、ゴールノ知事トナルシーザルコ、ニ滞在スルコト八年間西ハピ
 レニース山ヨリ東ハライン河ニ至リ北ハ海峽ヲ渡リテブリテンニ
 至ルマテノ地ヲ征服シ能ク士卒ノ愛敬ヲ得タリ時ニ西部亞細亞ノ
 パルシヤ羅馬ニ叛キシカハ三頭政治ノ一人ナルクラッシーズ、シ
 リアノ太守トナリ出テ、之ト戦ヒケルガ終ニメソポタミアニ戦死
 シ今ヤ三頭ノ一ヲ欠キタリ斯クテポンベースハ漸クシーザルサ
 嫉ミ其任地タル西班牙ニ赴カズシテ羅馬ニ止マリ務テ權勢ヲ張リ
 シーザルヲ凌カントセリ既ニシテシーザル、ゴール知事ノ滿期ニ

近ツケリシーザル謂ラケ己ガ功ハヨク以テ統領タルニ足ルベシト
 ナシ其歸府ニ先テコレヲ元老院ニ請求セリポンベース之ヲ拒ミ
 期ニ先ツコト一年シーザルヲシテゴール知事ノ任ヲ解カシメヌシ
 ーザル乃チ大ニ怒リ其手兵ヲ率キテ羅馬ニ入ルポンベース出テ、
 希臘ニ逃ルシーザルコレヲ追フテテッサリーノフアルサリーニ其
 軍ヲ破ルポンベースマタ逃レテ埃及ニ奔ル埃及王ヲ斬リテ兵ヲ
 シーザルノ軍ニ致スシーザル見テ大ニ慟哭シ厚ク之ヲ葬リナホ亞
 非利加西班牙等ニアルポンベースノ殘黨ヲ殲滅シ紀元前四十六年
 ヲ以テ羅馬ニ凱旋スシーザル謂ヘラク今ヤ羅馬ハ共和國ノ時代ニ
 非ズシテ永久至上ノ統治者ヲ要セリ然ルニ其人ハ我ヲ舍テ誰ゾヤ
 ト然リト雖モ其舊慣ヲ破リ惡感情ヲ人民ニ起サシメンコトヲ恐レ

元老院ヲシテ自己ヲ撰バシメ初メハ十年間ノ執政トナリ次キテ終身ノ大總督ノ號ヲ受ケ文武ノ大權ヲ掌握シ國政ヲ改良シ國民ノ一致ヲ計リ大ニ人心ヲ得タリシガ其皇帝タラントノ志望ヨリ嫉妬家野心輩ノ口ヲ籍ル處トナリ紀元前四十四年三月十五日ヲ以テ元老院中ポンペースノ像前ニ刺殺サレヌ嗚呼マタ英雄ノ末路悲ムベキカナ

(五) アントニースノ演説トハ如何

シーザルノ羅馬ニ皇帝タラントスルヤヨユニース、ブルトス及ピカユー、カツシースノ徒言ヲ共和自由ニ托シ遂ニシーザルヲ刺殺シケリ然ルニマルクス、アントニース、シーザルノ葬式ニ當リ其悍辭ヲ演説シ大ニシーザルノ功績ヲ贊美シ其シーザルヲ殺害シタ

ルノ無條理ナルヲ論ヲタリキ是ニ於テ羅馬市民ハ大ニコレニ感激シ其殺害者タリシブルトス及ヒカツシースヲ厭ヒケレバ二氏遂ニ羅馬ニ在ルコトヲ得ザルニ及ビキ

(五) 第二ノ三頭政治トハ如何

シーザル死後アントニース及ピレピトスノ二人共ニ勢力アリシガシーザルノ甥ニシテ其嗣子ナルオクタヴキース時ニ年僅カニ十九歳ナリシガマタ俊傑ノ聞ヘ高カリケレバ此ニ三人相和シテ第二ノ三頭政治ヲナセリ

(五) 第二ニ三頭政治ノ末路如何

第二ノ三頭政治ナルヤ公敵私敵一切コレヲ戰滅シテ羅馬ノ領地ヲ三分シケルガレピドスハ僅カニ亞非利加ノ屬邦ヲ得タルノミニシ

テアントニスハ東半ヲ取リテ埃及ノアレキサンドリアニ居リオ
 クタヴキースハ西半ヲ取リテ羅馬ニ居レリ然ルニアントニスハ
 埃及ノ女王クレオパトラノ色ニ惑ヒオクタヴキースト不和ヲ生シ
 ケルガ兩雄兵ヲ希臘ノ西岸アクチオンニ交ユルニ至レリ此結果ア
 ントニスノ敗ニ歸シ埃及ニ遁レテ自殺シヌ時ニ紀元前三十一年
 ナリ

(五) オーガストス治代ノ羅馬ノ隆盛ヲ叙セヨ

オクタヴキースハアントニスヲ滅シテ羅馬ノ全版圖ヲ有シタリ
 シガ紀元前二十七年ヲ以テオーガストスナル新號ヲ受ケ政教兵馬
 一切ノ權ヲ握レリ當時羅馬ノ版圖西ト北トハ歐羅巴ヨリシテ東ハ
 亞細亞ニ亘リ南ハ亞非利加ニ及ビ東西二千七百里南北一里餘リ

リキサテ此大國ノ首府ナル羅馬ハ其都府ヲ圍ラスニ二十里ノ壁ヲ
 以テシ又其外ニ廓外アリ家屋ハ壯大美麗ナル建築ニシテ圓形大戲
 場大神殿公會堂等ハ觀ルモノ目ヲ眩スルバカリナリキト云フカ、
 レハ建築ノ業美術ノ技大ニ發達シ詩人文士モ亦此時ニ輩出シ耶穌
 基督ノ猶太ニ生レシモ亦此時ナリキ

(五) 羅馬ノ繁盛ニ伴ヒテ生ゼシ弊風ヲ記スベシ

オクタヴキースノオーガストスナリシ以來凡二百年間ハ羅馬
 繁盛ノ極点ニシテヨク文學技藝ヲ保護セシカバアルターク、タシ
 タス等ノ文士輩出シタレトモ國民ノ道徳ハ其タ壞頽シテ逸遊淫靡
 ニ陷落シ奴隸ノ賣買盛ニ行ハレテ其待遇苛酷ヲ極メ卑猥ナル喜劇
 殘忍ナル競技一般ニ流行マタリキサレバ之ヲ諷シ之ヲ譏ルノ詩歌

モマタ盛ニ行レタレ共自然ノ頽勢ハマタ如何トモスベカラズ政綱
漸ク壞廢シテ軍隊ノ跋扈次第ニ甚シク加フルニ外敵ハ益々強大ト
ナリケレバ遂ニハ國威マタ振ハズナリヌ

(五) 兵士ノ專横遂ニ皇帝ノ廢立ヲ行フニ至レル狀

況ヲ略叙スベシ

始メ羅馬帝室ニハ國內ノ精銳ナルモノヲ撰擇シテ近衛兵ナルモノ
凡一萬餘人ヲ養ヒタリシガ其威力漸ク加ハリテ元老院ヲ左右シ帝
王ノ廢立ヲ行フニ至レリ其甚タシキ至リ殺逆ヲ敢テシタルコトサ
ヘアリキ漸クシテ權力ノ衝突ヨリ其各好メル所ノ帝王ヲ擁立シ遂
ニハ國中二人ノ帝王ヲ現出スルノ奇觀ヲ呈シタルコトアリキ

(五) 基督教ノ起原ヲ問フ

猶太人ハ常ニ他國ノ壓抑ヲ受ケシガ尙ホ古來ノ一神教ヲ固守シ必
ズ救世主ノ出テ、國運ヲ挽回スルモノアラント期セシニ何ゾ計ラ
ン羅馬甚タ強盛ニシテ猶太國殆ント滅亡セントス此時耶蘇基督ナ
サレニ生レ自ラ神ノ子ナリ救世ノ主ナリト公言シ猶太ノ勝利ハ
政治界ニアラズメ宗教界ニアリト唱道シ大ニ猶太教ノ儀式禮典ノ
繁冗ナルヲ攻撃シ一視同仁ノ義ヲ説キケレバ遂ニ叛逆者ナリトノ
誣告ヲ受ケテ磔刑ニ處セラレヌ其徒遁レテシリニアニ至リ遂ニ四方
ニ散シテ其教ヲ擴メキ

(五) 耶蘇教徒ノ苦心ト其漸ク盛大ニ至リシ狀況ト

ヲ問フ

基督ノ死刑ニ處セラル、ヤ其教徒四方ニ散シタリシガ所謂十二使

徒ナルモノ教會ヲヨエルサレムニ設ケテナホ猶太民族ヲ感化シボ
 ール及ビピターノ如キハ希臘ヨリ進ンテ羅馬ニ入りキ時ニ羅馬皇
 帝子ロ怒リテ其徒ヲ慘殺シケルガ羅馬人民ハ却リテ同情ヲ耶蘇教
 徒ニ寄せ漸ク盛ナラントシケレバダイオクレシアン帝ハ其會堂經
 典ヲ破壊シ其教徒ヲ虐殺シケルガ教徒ノ熱心ハ更ニ其熱度ヲ加ヘ
 第二世期ニ至リテハ亞非利加ヨリゴール地方ニ蔓延セリ時ニ羅馬
 ノコンスタンチン帝外敵ト兵ヲ交フルノ際戰勝ヲ基督ノ神ニ祈リシ
 ニ恰モヨシ大勝ヲ得タリケレバ大ニ帝ノ信用ヲ博シ茲ニ始メテ公
 許ヲ得羅馬ノピター寺コンスタンチノープルノソフイーア寺ノ建
 立ヲ得僧侶ハ總ベテ免稅ノ特典ヲ與ヘラレタリ

(五九) 基督教派ノ分岐ヲ叙スベシ

基督教ハ其教ノ漸ク擴マルニ從ヒ神學ノ研究亦益々盛ナリケレバ
 茲理上ノ異說紛々トシテ起レリ是ニ於テコンスタンチン帝ハ其教
 徒ヲ集メテ宗教會議ヲナイミーアニ開カシメ信條ヲ一定シタリ時
 ニ此會議ニ於テ排斥ヲ受ケタルアリアスノ一派ハ日耳曼諸民族ノ
 間ニ盛ニ傳播シ又エフネサスノ會議ニ於テ排斥ヲ受ケタルチスト
 ル一派ハ波斯ニ走リテ其教義ヲ亞細亞地方ニ傳播セシメケレバコ
 ーニ數個ノ教派ヲナスニ至レリ

(六) 羅馬帝國ノ兩分ヲ叙スベシ

全羅馬帝國ニ君臨シタル最終ノ皇帝ヲテオドシーストス皇帝ハ紀
 元三百九十五年ニ死シ帝國ハ東西二部ニ分レテテアドシースノ二
 子共ニ之ニ君臨スルコトハナレリサテ東部羅馬ハバルカス半島

小亞細亞、シリア、エジプト等ニシテ其首府ヲユンスタンチノ
 プルトシアルカヂースコレニ君臨シ西部羅馬ハライン河以西イタ
 リヤ西班牙及ビ北部亞非利加ニシテ羅馬ヲ首府トシホノリース之
 ニ君臨スカクテ西羅馬ハ紀元四百七十六年ヲ以テ其祚ヲ失ヒタレ
 ドモ東羅馬ハ第十五世紀ニ至ルマテヨク其國ヲ保チシガ途ニ土耳
 古人ノ爲ニ滅ホサレヌ

(六二) 西羅馬ノ滅亡ヲ記スベシ

原因

スカンジナビヤニ住シタルゴートノ南下ヲ企テシヨリ諸蠻民ノ
 移動ヲ起シシヲ遠因トシ國民ノ怠弱日耳曼傭兵ノ跋扈近因ヲナ
 ス

事實

西羅馬帝國ト稱スト雖モ其實權ハ日耳曼傭兵ノ手ニアリケレバ
 其元老院ハ羅馬ハ一帝ニテ足レリトナシ東羅馬ト合同ノ議ヲ決
 シ帝ヲ廢シテ冕冠紫衣ヲ東帝ゼノニ贈リ蠻將オドアセルヲ以テ
 伊太利ノ元首ト號シ東帝ノ下ニ隸シテ西部羅馬領ヲ統御シタリ
 キ時ニ紀元四百七十六年ナリキ後五十七年國內分裂シテ騷擾甚
 タシカリケレハ東羅馬全ク之ヲ併セヌ

第四編 中世史

(六三) シヤスチニアン帝ノ事業ヲ述ブベシ

シヤスチニアンハ東羅馬ノ皇帝ナリ此時國內奢靡風ヲナシテ道義

壞敗シ朋黨ノ弊宗教ノ亂等マタ甚タシケレハ帝ノ立ツニ及ビテ先ツ朋黨ヲ鎮壓シ更ニ耶蘇教以外ノ教徒ヲ國外ニ逐ヒ又哲理ノ講究ヲ禁シテ大ニ心ヲ内治ニ用ヒケレハ國內漸ク靜穩ニ歸シタリ是ニ於テ法典ヲ編纂シ寺院ヲ建テ又支那ヨリ歸來セル宜教師ニヨリテ養蠶街ヲ傳ヘタリ且當時伊太利ニ於ケルゴート人ノ勢力衰ヒ又亞非利加ノワンドル人ノ勢力モ衰ヘタリケレバ其將ベリサリースニ命シテコレヲ討タシムベリサリースハ一世ノ名將ニシテ嘗テ波斯ノ勢力ヲ壓抑セシ人ナリケレハワンドル人ト戰ヒテ亞非利加ノ舊領地ヲ恢復シ又伊太利ヨリゴート人ヲ逐ヒ更ニ西班牙ノ南部ヲ恢復セリ是ニ於テカ舊羅馬ノ強大ニ及ハズト雖モマタ羅馬ノ強盛ヲ世界ニ示スニ至レリ

(三) シヤスナニアン帝死後ノ羅馬ノ狀勢ヲ問フ

シヤスチニアン帝一世ノ英資ヲ以テ中興ノ業ヲナセシガ國力マタ次第ニ衰弱シ西ニハロンバルト人ノ叛キテ伊太利北部ヲ占領スルアリ北ニハスラウ人アパール人及ビチュラン人等ノ虛ヲ窺フアリ東ニハ土耳其人波斯人アリ斯カル、内ニフランクハ益々強大トナリ西班牙ハ再ビゴートノ據ル所トナレリ加之更ニ一種懼ルベキ勢力ヲ以テ雌雄ヲ羅馬ト争ハントスル新強國乃チアラビヤハ其背後ニ起レリ嗚呼羅馬モマタ多難ナルカナ

(四) アラビヤ國ノ勃興及マホメットノ勇敢ヲ記セ

アラビヤノ地ハ概チ沙漠ニシテ其人民ハセミチツク派ニ屬シ或ハ隊ヲ組ミテ行商シ或ハ遊牧ヲ以テ業トセルトコロノ蠻民ニシテ其

宗教ハ偶像ヲ拜崇シケリ紀元六百二十一年マホメット眞神ノ唯一
 ヲ説キ己自ラ上帝ノ天使ナリト稱セシカバ市民之ヲ容レスマホメ
 ヲツトヲメシナニ逐ヘヌマホメットコ、ニアルヲ八年兵ヲ整ヒ進テ
 メツカヲ陷レ終ニ亞刺比亞ヲ一統スマホメットノ没後世々ノ嗣者
 教徒等ハ經典朝貢及刀劔ノ三者ヲ以テ列國ニ臨ミ先ツシヲアラ征
 服シテ埃及ニ及ビ紀元六百四十二年ヲ以テ波斯ヲ滅シヌ其後オミ
 アトド朝ノ祖モウイヤニ至リテ都ヲバグダットヨリダマスクス
 ニ移シ東羅馬帝國ノ國境ヲ犯シタリキ時ニ亞非利加領ノ羅馬人爭
 ヲ土民ト生ヲ援テマホメット教徒ニ請フ教徒乃チ入テ全國ヲ征服
 ス此時西ゴス王ウヰキチザ廢セラレテロ德里ック王位ヲ奪ヒケレハ
 マホメット教徒ハ廢立ノ諸子ヲ援ケテ西コスヲ平定シ更ニ進ンテ

フランク王國ニ侵入シ悉クローン以南ノ地ヲ占領シケリ時ニフラ
 ンクノ族ニチャーレス、マールテル乃チャヒンノ子カル、ナリナル
 モノアリ大ニ發憤シテマホメット教徒ト戦ヒ之ヲ敗リケレハ教徒
 等軍ヲ西班牙ニ班レケリマホメット教徒ハ爾來コ、ニ盤踞シテ中
 世期ノ末年ニ及ビタリ

(六五) マホメットノ少時及如何ナル考ヨリ自己ノ宗

教ヲ建テ初メシヤ其云フ所如何

マホメットハ紀元五百七十二年ヲ以テアラビヤノメツカ府ニ生ル
 幼ニシテ孤ナリ少時ハ隊商ニ伍シテ四方ニ旅行シケルカ猶太教耶
 蘇教ノ自國ニテ信スルトコロノ偶像教ニ勝ルヲ感シ自己モマター
 宗ヲ開キテ當時ノ多神崇拜ノ弊ヲ救ヘント欲シ數年默想觀心隱レ

テ出テザルコト數年一旦釋然トシテ悟ルトコロアリ乃チ出テ、人ニ告ケテ曰ク眞神ハ唯一アルノミト且ツ宣言シテ自己ハ神ヨリ託宣ヲ被リテ撰バレタルトコロノ豫言者ナリ自己ニ先チテモーゼス及ビ耶蘇等アリタレドモ今マホメツトハ特ニ神ヨリ命セラレタルトコロノ最モ完全ニシテ最モ至大ナル預言者ナリト云ヘリ

(六) フランク人ノ勃興トパリ府ノ創奠トヲ問フ

西羅馬ノ滅亡セシトキハ西ゴート人及ビフランク人等ハカリアノ地ニ住居シタリシガフランク人ハ漸ク其勢力ヲ増大シ其盛大ニ向ヒタルハメロキンク家ノクロキスノ時ニシテ此時始メテ都ヲパリニ奠メス焉ゾ知ラン他日フランス國ノ基礎ノ此時ニ置カレシ

(七) カロリシゲル朝ノ創定如何

フランク王クロキスノ後ハ諸王暗愚ニシテ紛争絶ユルコトナカリケレバ王家爲メニ大ニ衰弱シタリ當時宰相カルルナルモノアリ英傑ニシテヨク西班牙ヨリ東向セントスルマホメツト教徒ヲ破リケレハ人呼ンテカル、鐵槌トナシキ其子ベピンマタ宰相タリシカ途ニ王ヲ廢シテ自ラフランク王トナレリ時ニ紀元七百五十三年ナリキ是ヲカロリシゲル朝ノ初メトナス

(八) カール大帝ノ事業ヲ記スベシ

カール大帝ハフランク王ベピンノ子ナリ紀元七百七十一年父ニツギテ王位ニ上リベピン王ノ經營シタリシ大國ノ後ヲ受ケシガカール王ハ更ニ遠大ナル目的ヲ抱ケリ乃チドイツノ地ニ於テ再ビ西羅馬帝國ヲ建テントスルニアリキサテ此目的ヲ達センガ爲メニ種々

ナル國民ト數十回ノ戰爭ヲナシ遂ニ其版圖ヲ西ハ西班牙ノエプロ河ヨリ東北ハエルベ河ニ至リ東南ハハンガリーノタイツス河ニ至リ伊太利ノ太半及コルシカ等ヲ包有シケリ

當時西部歐羅巴ニ勢力アリシハ羅馬法皇トカ、ルトノ二人ナリシガ法皇ハ曾テカ、ルノ爲メニロンバルド人ノ厄ヲ救ハレケレバ之ヲ德トシテ紀元八百年ノ十二月ヲ以テ羅馬皇帝ノ冠ヲカ、ルニ加ヘシメヌ是ニ於テカカ、ル目的ヲ達スヲ得テ西羅馬皇帝トナルヲ得タリ

カ、ル帝ハ其晩年ニ至リテカヲ帝國ノ凝固ト人民ノ改進トニ盡シ國政家事宗教等一切ノ事殆ト手ヲ下サバルハナク敏捷ナル頭腦ト銳利ナル判斷トヲ以テ事ヲ所理シタリキ而シテ帝ノ好ムトコロハ

學問ニアリテ常ニ多識ノ僧侶ヲ身邊ニ集メテ諸種ノ學術ヲ講ゼシメキ又親ヲラテン語希臘語等ヲ能クシ古英雄ニ就テノ詩歌ヲ集メタリキ

(六) 西羅馬ノ分裂及新國創建ヲ記セ

カ、ル、大帝死シテ一子ルイ位ヲ繼キタリシガ柔弱ニシテカ、ル、大帝ノ手腕ナカリケレバ忽チ三子ロタール、ルイ、及カ、ル、ノ間ニ國土讓遺ノ紛争ヲ生シ紀元八百四十三年ヲ以テフエルヅンノ條約ヲ定メ境域ヲ三分シテ三子ヲ王トスルコト、ナリ乃チルイハ東部日耳曼ノ地ヲ取リカ、ル、ハ西部佛蘭地方ヲ取リロタールハ此中間ナル北海ヨリ地中海ニ至ルノ間及ビ伊太利ノ北部ヲ取レリ是ニ於テカ、ル、日耳曼佛蘭伊太利ノ三國新ニ成ル

(七〇) 歐羅巴諸國ノ政治創始ヲ述ブベシ

羅馬ノカル、大帝ノ死後歐羅巴諸國ハ大ニ興起シフランク王國ハ分裂シテ佛蘭日耳曼及ビ伊太利トナリ別ニ史上ニ表ハレタルモノ
イングランド、スカンリチナビヤ及ビ西班牙アリ又東方ニ土耳其アリ蓋シ此時ヲ以テ歐洲諸國政治歴史ノ創始トナスベキナリ

(七一) オットー大帝ノ事業ヲ記セ

オットー大帝ノ父チヘンリート云フサキノニ候タリシガ選バレ
テ日耳曼帝トナリ武ヲ修メ兵ヲ練リ殊ニマギヤール人ヲ伐チテ其
勢ヲ挫キシガオットー大帝マタ勇敢大志父ニ似テ再ヒマギヤール
人ヲ破リテマタ侵寇セシメヌ加之バーガンデー及ビ上伊太利ノ女
王ト婚シテ伊太利ノ王位ヲ得遂ニ法王ヨヨン十二世ヲシテ羅馬皇

帝ノ冠ヲ贈ラシムルニ至リヌ

(七二) 羅馬法皇ノ由來如何

基督教會ハ教會使徒ノ率ウル所タリシガコンスタンチン帝ノ時教
長組織ニ變更シ各首都ニ僧正ヲ置キテ其近隣ノ教會ヲ支配スルコ
ト、ナリヌ而シテ其主ナルモノ五教長アリシガ羅馬僧正次第ニ其
勢力ヲ増加シ終ニ法皇ノ尊稱ヲ得ルニ至レリ當時第一世ノ位ニ上
リシモノヲレオ法皇トナス

(七三) 十字軍ノ起源ヲ問フ

當時回教漸ク行ハレテアラビヤ人ノ勢力次第ニ加ハリ遂ニ希臘ニ
入り東羅馬帝國ニ寇シイツサク一世ト戰ヒテ大ニ之ヲ破リゼルサ
レム、パレスティン等ノ地モマタ其占領スルトコロトナリヌ此頃

耶蘇教徒ノセルサレムニ巡禮シテ罪障消滅ヲ祈ルコト行ハレケル
 ガセルジユキアントルコ人ハ大ニ之ヲ虐待セシカバ羅馬法皇アル
 バン二世遂ニ聖地回復ノ軍ヲ起スニ至リヌ實ニ一千〇九十六年ノ
 コトナリ北軍皆十字ノ赤布ヲ右肩ニ着ケテ從軍ノ徽章トナシケレ
 ハ遂ニコレヲ十字軍ト呼ブニ至リヌ

(七) 拉丁王國ノ建設ヲ問フ

紀元一千九十七年七月十五日十字軍ハ進ンテセルサレムニ迫リ遂
 ニコレヲ陷レヌ是ニ於テゴッドフレエ聖地ノ保護者トナシセル
 サレムノ拉丁王國ヲ建設シタリ

(七) 十字軍ノ影響ヲ記セ

十字軍ハ十數年ノ間七回ノ大軍ヲ起シ諸國ノ帝王サヘ出陣シタ

リシガ其大目的タル靈地ノ恢復ハ遂ニ果ス能ハサリシサレド此十
 字軍ノ爲メニ從來疎隔セシ各國間ノ交際ヲ滑カナラシメ歐洲國民
 ノ宗教心ヲ篤クシ寺院ノ權力ヲ強メ諸侯伯ノ實力ヲ減シテ下民ノ
 自由ヲ伸張シ騎士ハ高尚ノ氣風ヲ養ヒマタ商業モ大ニ發達シ殊ニ
 東洋ノ文華ニ接シテ其文藝ヲ傳ヘタル等其効ノ著ルキコト一ニシ
 ヲ足ラサルナリ

(八) 十一紀ニ於ケル歐洲東北部ノ形勢ヲ述ブベシ

魯西亞ニテハヴラジミルノ没後諸子ノ間ニ爭乱起リシガヤロスラ
 ヴ一世之ヲ統一シ内ハ國政ヲ整頓シ外ハベチエネグ族ヲ征服シ大
 ニ國威ヲ發揚シタリキサレド其後マタ幾多ノ小侯國ニ分裂シテ爭
 乱相續キボロヅツイ西ヨリ伐チ入りポーランドハホレスラヴ三世

ノ四子ヲ分封セシヨリ其間ニ争乱起リシリーシア最モ強大トナリ
 ヌ匈牙利ハ其後益々東南地方ニ版圖ヲ擴メテトランシルヅエーニ
 ア地方ヲ併領シクローエーシアヲ征服シタリキサーヴィアハ希臘
 帝國ヨリ全ク獨立セシガ常ニ匈牙利及ビブルゲーリアトノ争乱絶
 エザリキ

(七) 百年戦争トハ如何

端緒

佛王ヒリツプ死シテ其三子相續キテ位ニ即キシガ終ニ男系ノ位ニ
 即クベキナキニ至リテヒリツプノ姪乃チヒリツプ六世王位ニヒル
 時ニ英國ハエドワード三世聖英國ヲ統一シテ玉タリシガ會々佛ノ
 王位空シキヲ聞キエドワードハ王位ヲ嗣グベキ權利アリト稱シ海

陸ノ大軍ヲ發シテ佛國ニ入ル時ニ紀元一千三百三十九年ナリ是ヲ
 百年戦争ノ端緒トナス

第一次ノ戦争

英國ノ陸海軍ノ佛國ニ入ルヤ佛國ノ騎士ハ常ニ利ヲ失ヒ加之商民
 及農民ノ反乱内ニ起リシカハ紀元一千三百六十年ヲ以テ和ヲ講シ
 プワーツ、ギーエン、ガスコニ、カリヌヲ英王ニ讓與セリ

第二ノ戦争

佛王チャールレス六世死スルヤ英ノヘンリー五世マタ佛王ノ位ニ上
 ラントシ佛王チャールレス七世英軍ニ抵抗ス當時佛國ハルワール河
 南ヲ保ツノミニシテ國ノ北半ハ既ニ英軍ノ爲メニ占領セラレタル
 ノミナラズ英軍ハ益々南進シテオルレアン城ハ重圍ノ中ニ陥リ國

家ノ存亡殆ト且夕ニ迫レリ時ニ一處女ジャンダークナルモノアリ
重閉ヲ衝キテ敵中ニ突貫シ大ニ人心ヲ鼓舞シケレハ國民奮起シテ
英軍ニ抗シ紀元一千四百五十三年ヲ以テ全ク英軍ヲ國外ニ逐ヒ退
ケヌ

(五八) 英吉利ニ於ケル兩議院ノ起源ヲ問フ

英王エドワルド一世エールスヲ合併シ蘇格蘭及佛蘭ト交戦シケル
ガ其費用頗ル多端ナリケレバ貴族及僧侶ノ外別ニ州市ノ代表者ヲ
召集シテ國會ヲ開ケリ時ニ紀元千二百九十五年ナリコレヲ衆議院
ノ始メトナス後エドワルド二世ノ時貴族院ヲ起シヌ是ニ於テ兩議
院ノ制成ル

(五九) 薔薇戰爭ノ顛末ヲ述フベシ

ランカスター家ノヘンリー四世ハ國會ノ後援ヲ得テ王位ニ上リ其
位ヲ其子ヘンリー五世ニ傳ヘシガ國民ノ中其正統ニ非ザルヲ説ク
モノアリシカハヨーク家ノリチャード之ニ乘シテ兵ヲ擧グ時ニ紀
元一千四百五十五年ナリ後一千四百六十一年リチャードノ子エド
ワルド四世遂ニ王位ニ上リヌサレドランカスター家ハ常ニ複讐ヲ
圖リ一千四百八十五年ヲ以テヘンリー七世遂ニ王位ニ上レリサナ
王ハ兩家相争フノ不利ナルヲ設キ婚ヲヨーク家ニ求メケレハヨ
グ家モコレヲ諾シテ兩家茲ニ結合シテ薔薇ノ亂ハ終局ヲ告ケヌ此
亂ニ薔薇ヲ以テ名ケシハ何故ゾト尋ヌルニランカスター家ハ紅薔
薇ヲ以テ徽章トナシヨーク家ハ白薔薇ヲ以テ徽章トナセシニヨル
ト云フ

(八〇) オットマン土耳其ノ建國ヲ記セ

始メオットマンタークスハ北方亞細亞ニアリシガ蒙古人ノ興ルニ及ヒ逐レテ西遷シ僅カニ小亞細亞ニ於テ小采邑ヲ有セシガオスマンノ時ヨリ漸次其版圖ヲ擴張シラッド一世ハ全ク小亞細亞ヲ征服シテ其勢希臘ニ及ヒ將サニコスタンチノールヲ侵サントスルニ及ベリ然ルニ蒙古人帖木兒大ニラットノ軍ヲ破リオスマンヲシテマタ勢力ヲ振ハシメズナシヌサレト帖木兒ハ支那ヲ征シテ戰歿シ其領國遂ニ分裂スルニ至リケレバオスマンタークスハ再ビ其勢力ヲ恢復シ終ニ一千四百五十二年マホメット二世コンスタンチノールヲ陷レ羅馬東帝コンスタンチン十二世ヲ滅シテ茲ニ土耳其帝國ノ基礎ヲ確立シタリ

(八一) 十世紀前後ニ於ケル文學ノ發達ヲ記セ

羅馬帝國ノ盛時ニ於テ文華ノ光輝ヲ發揚セシト雖モチユートン人ノ文學ヲ蔑視セシヨリ拉丁文學ハ廢頽シ言語ノ如キモ拉丁語ハ漸ク轉訛シテコレヲ知ルモノ少クサリトテ各國ノ方語ハ未タ文字ヲナスニ至ラズ頗ル文學上ノ厄運ヲ來シ僅カニ僧侶寺院ノ間ニ於テコレガ命脈ヲ繋キタリ其他科學數學歴史等ニ於テモマタ僧侶ノ關スル所ニシテ學海ノ全權ハ悉ク僧侶ノ手に存シ弊風漸ク甚シキニ至リケレハ深く古學ヲ講究シテ教義ノ眞意ヲ探ラントスルノ人漸ク起リコ、ニ文學復興ノ機運ヲ來セリ伊太利國蓋シコレカ魁タリシナリ當時長モ有名ナリシモノハダンテ、ペトラーク、ボツカシヲ等トス世人コレ等ノ徒ヲ稱シテヒューマニストト云フ此時英國ニ

テヨ一サーナルモノアリ詩ヲ以テ著ハル是ヨリサキ文學勃興ノ徵トモ稱スベキハ學校制ノ漸ク發達シテ大學校ノ諸所ニ起リシコトナリ中ニ就キテ最モ早キハヲツクスフオードニシテコレニ次キシハ巴里ノ大學ナリシ

(八二) 伊太利ノ美術發達ヲ問フ

東羅馬帝國ノ滅亡セントスルニ當リテ詩人技工ハ多ク伊太利ニ遁レ來リケレハユ、ニ古學ノ復興ト共ニ美術ノ發達ヲ見ルニ至リシケールアンヨエロ、ラファエル等ノ大家ヲ輩出セシメヌ

(八三) 印刷術ノ發明ヲ記セ

文學ノ復興ト共ニ書籍印行ノ業行ハレヌサテ當時木版ヲ發明シタリシハ伊太利ノローレンスカステルニシテコレニツキテストラ

スブルグノグーテンベルグ活版ヲ發明シタリコハ一千四百三十六年ノコトナリキコレヨリ數年ナラズマテ印刷術ハ歐州各國ニ傳播シ其改良モマタ行ハレタリ

(八四) 葡萄牙人ノ東洋航海ヲ記スベシ

コンスタンチノープル及アレキサンドリヤノ土耳其人ノ手ニ歸シテヨリ歐州人ノ東洋貿易ノ途ヲ阻害シケレハ歐州人ハ新航路發見ノ必要ヲ感シ一千四百八十六年葡萄牙人バルノローシユ、ヂーアスハ亞非利加洲ノ南端喜望峯ニ達シ一千四百九十八年同國人ヴァスコ、ダガマールハ印度洋ヲ航シテマラバールノ海岸ナルカリカッタニ達シヌ時ニ羅馬法皇ハ新ニ發見シタル地ヲ以テ其領地トナスコトヲ許シケレハ葡萄牙國人ハ益々船艦ヲ東南ニ送り亞非利加、亞

刺比亞波斯ノ海岸ヲ侵掠シ更ニ進ンデハ印度ノ歐亞ヲ根據トシテ
其東海岸及錫蘭ニ至リマラツカ爪哇等ヲ侵略シ壹千五百六十三年
ニハ支那ノ瑪港ヲ占領シタリ

(八五) 亞米利加洲ノ發見ヲ述ブベシ

葡萄牙人ノ頻リニ東方ニ垂涎スルニ當リテ伊太利ノ人クリストフ
アール、コロンブスハ印度ニ達スルニハ西方ヨリスル方却ツテ徑捷
ナルベシトナシ先ツ之ヲ英國ニ説キ次ニ佛國ニ説キタレト皆之ヲ
信セザリシガ西班牙女王イサベラ其不撓ノ志ヲ嘉ミシテ之ニ航海
ノ費用ヲ給セシカバコロンブスハ一千四百九十二年ノ八月三日ヲ
以テ西班牙ヲ發シ十月十二日ヲ以テバハマ群島ニ着シ更ニキューバ
ハイチ等ノ諸島ヲ發見シテ一たび西班牙ニ歸航シタリ更ニ之ニ航

スルコト四回ニ及ビ終ニオリノ河口ニ達セリ後一千四百九十七
年フロレンスノ人アメリゴヴェスパン南亞米利加海岸ニ航シ終ニ
此新世ニ命ズルニ其名ヲ以テシテコレヲ亞米利加洲ト稱スルニ至
レリ

(八六) 世界一周ノ第一航ヲナセシモノハ誰ゾ

西班牙人フアヂナンド、マジエランハ始メテ世界一周ヲ企テヨク
其目的ヲ達セリ時ニ紀元一千五百二十年ナリ

(八七) 中世史ノ概説ヲ望ム

羅馬帝國瓦解ノ後ハ東羅馬ヲ除クノ外ハ歐洲全土ハ殆ト野蠻人ノ
世ニシテ東方ニハ亞刺比亞國ノ勢力強大ヲ致メ東西亞刺比亞ヲ建
成ス之ト同時ニ歐洲中土ニフランク王國ノ勃興セルアリテカ、ル

大帝ハ再ビ西羅馬ヲ建成セリ然ルニカル、大帝ノ死後ハ西羅馬分裂シテ日耳曼、佛蘭、伊太利ノ三國トナリコレト同時ニ英吉利、カンヂナビヤ及西班牙等ノ諸國モマタ漸ク興起シ來レリ而シテ全歐洲ニ通セル事件ニ就キテ云ハ、宗教政略トシテハ羅馬法皇大勢カヲ有シ其宗教熱ノ運動トシテ十字軍アリ社會ノ現象ニ付キテ云フトキハ封建制度ノ盛衰アリ義勇騎士ノ消長アリ開明ノ度ヲ以テ云フトキハ中世紀ノ始メヨリ十一世ニ至ルマテハ所謂暗黒時代ナリシガ其後漸ク商業ノ發達スルアリ文藝ノ勃興スルアリテ大ニ光輝ヲ發揚セントスル傾向ヲナシタリキ

第五編 近古史

(八八) 近世紀ノ中世紀ト異ルノ諸点ヲ記セ

近世紀ノ中世紀ト異ルノ諸点ヲ云ハハ

1 此世紀ノ始メヨリ數多ノ小獨立國ハ漸ク大國ニ統一セラレタルコト

2 諸邦國漸ク宗教的制御ヲ脱セシコト

3 國家ハ宗教的統一ニアラズシテ政治的ノ統一トナリシコト

4 諸種ノ發明ハ大ニ人智ヲ擴メ事業ヲ改メシメシコト

5 航海ノ發達ヨリシテ陸地ノ發見人民ノ移植ハ大ニ歌州全土ノ勢力ヲ増加セシコト

6 商業ノ進歩ヨリシテ大ニ實業ノ發達ヲ獎勵シ大ニ物質的文明ヲ進歩セシメタルコト

- 7 職業及ビ學問ハ分業分科シテ各其專門ヲナスニ至リシコト
- 8 歐羅巴諸州ノ共同平和ヲ保ツタメ諸大國間ノ權力平均ヲヒテ政治上ノ原理トナセルコト

等コレナリ

(八九) ルーテル宗教改革ヲ記セ

ルーテルハ名ヲマルチント云ヒ一坑夫ノ子ナリ紀元一千四百八十年サキソニーノアイスレーペンニ生ル初メ大學ニ入りテ法學ヲ修メシガ十八歳ノ時オーガスチン派ノ寺院ニ入りテ僧トナリ大ニ古學ヲ研究セリ後ツイツテンベルヒ大學ノ神學講師トナレリ是ヨリサキ紀元一千五百十七年羅馬法皇レオ十世ハ羅馬ノセントピートル寺建築ノ費ヲ募ルヲ名トシテ贖罪票販賣ノ事ヲ公許シ僧侶ヲ

シテ之ヲ賣ラシメタリシカバ反對論大ニ起レリ殊ニマルチンルーテルハ其背理ナルヲ痛論シテ九十五項ノ意見書ヲ世ニ公ニシタリ此意見書ノ出ツルヤ日耳曼ノ人民大ニ動キケレハ法皇ハルーテルヲシテ羅馬ニ至ラシメント務メタレトモルーテル遂ニ聽カズ時ニチャールレス五世日耳曼皇帝ノ位ニ上リ壹千五百二十壹年二月ウオルムスニ議會ヲ開キルーテルヲ召シテ其說ヲ棄テシメントセシガルルーテル固ク執リテ動カズ遂ニ危害ノ其身ニ及ハントシケルガサキソニーノフレデリツ公之ヲ救ヒテ其城中ニ止メシムルコト十壹年ニ及ビキルーテルハ此間ヲ以テ聖經ノ翻譯ニ從事シケレバ其所說益々世上ニ傳播セリチャールレス帝之ヲ見テ議會ヲアウグスブルヒニ開キ更ニ新教ヲ禁止セント試ミタリ是ニ於テ新教徒ノ諸侯ハ

同盟シテ之ニ抗シ内亂將サニ起ラントスルニ及ヒタリキ紀元壹千五百四十六年ヲ以テルーテル死シタリシガ其年ヲ以テ新教ト舊教トノ諸候間ニ戰爭起リ壹千五百五十五年オーグスブルクノ條約ニ由テ兩教同等ノ權利ヲ確定シ茲ニ始メテ新教其自由ヲ得ルニ至レリ

(九〇) エズイット宗トハ如何

エズイット宗ハ西班牙ノ僧ロヨラヲ以テ開祖トスロヨラ曰ク世界一切ノ人民ハ宜シク耶蘇舊教徒タラザルベカラズト大ニ其徒ヲ四方ニ派遣シテ布教ヲ務メヌ我日本ニ耶蘇教徒ノ始メテ來リシモ實ニ此時ニシテ其來リシカハエズイット宗ノ僧侶ナリキ

(九一) 和蘭ノ建國ヲ記セ

宗教改革論ノ行ハル、ヤ當時和蘭ハ白耳義ト共ニ一國ヲナシテチザラントト稱シヒリツア二世西班牙ト共ニ此國ニ王タリシガチザラント中今ノ和蘭地方ノ人民ハ職業智力ノ点ニ於テ最隆盛ヲ致シ歐羅巴ニ於テ最モ大膽ナル航海者ト稱セラレ最モ熟練ナル製造者ト呼ハレ大ニ心ヲ新教ニ傾クルモノ多カリケレハヒリツアハ銳意權勢ヲ振ヒテ其新教徒ヲ剿絶セント務メケルガ遂ニ其反動ノ爲メ戰亂ヲ起スニ及ヒ紀元一千六百〇九年ヲ以テ全ク獨立シテ國ヲ建テ名ヲ和蘭ト呼フニ至レリ

(九二) 英國ニ於ケル新教徒ノ地位ヲ固メタル所以ヲ記セ

英國ノ新教ハエリサベス王位ニ即キテ新教ヲ以テ國教トナスニ原

由スレトモ當時ハ舊教徒ノ勢力甚ク強クエリサベスノ異母妹マリ
 ーハ姉ニ先チテ王位ニ上リ西班牙ノヒリツプ二世ト婚シテ大ニ舊
 教ヲ信シタリケレハ舊教徒ノ勢力モマタ甚ク強カリシナリサレハ
 舊教徒等ハエリサベスノ新教ヲ以テ國教トナスノ布告ヲ得ルヤ蘇
 格蘭ノマリーヲ以テ王タラシメントノ隱謀ヲ企ケレハエリサベス
 ハ遂ニマリーヲ殺スニ至レリ是ニ於テヒリツプ及ヒ羅馬法皇ハ大
 ニ怒リテ先ツ英國ヲ懲サント欲シ有名ナル不敗艦隊ヲ送リテ英吉
 利海峡ニ入レリ時ニ會々颶風起リテ西班牙ノ艦隊大半覆没シテマ
 タ戰フ能ハサルニ至リシカハ是ヨリ新教徒益々増加シ其結果大ニ
 英國ノ新教徒ノ地位ヲ確定セシメヌ

(六三) ナンツノ勅令トハ如何

宗教改革ノ精神一タヒ日耳曼ニ起ルヤ漸ク四方ニ傳ハリテ益々勢
 カヲ高メントス佛蘭ニテモ宗教改革ノ議ハヨヤーンカルバンノ唱
 道スルトコロトナリテ其徒マタ頗ル多カリケレバフランシス一世
 及ビヘンリー二世ハ共ニ新教ヲ壓服セシモ新教ハ益々人民ノ間ニ
 傳播シテ一千五百七十二年チャーレス九世ノ時ニハセントバーン
 ロミー虐殺ノ事ヲ生セリ爾來新舊兩教徒ノ爭擾日トシテ絶ユルコ
 トナガリシカヘンリー四世ノ王位ニ登ルニ及ヒ終ニ自ラ舊教ヲ奉
 シテ先ツ人民ノ心ヲ得更ニ巴里以外ニ於テハ宗教ノ自由信仰ヲ許
 シ且ツ諸種ノ特權ヲモ與ヘタリ是ヲナンツノ勅令ト云フ此ナンツ
 ノ勅令ニヨリ内亂全ク平定スルヲ得タリ

(六四) 三十年戦争トハ如何

日耳曼ヲ中心トシテ起レル戦争ニシテ其關係スルトコロ殆ト全歐
 羅巴洲ニ及ヒ紀元壹千六百十八年ヲ以テ其端ヲ開キ壹千六百四十
 八年ニ至ルノ三十年間ニ亘レリ今大要ヲ左ニ説クヘシ

起因

日耳曼ニテハ新教ノ勢力益々増進スルト共ニ舊教徒モ亦其勢力
 ヲ挽回セント勉メシカール・ドルフ二世ノ時代ヨリ兩教徒ノ反目
 益々甚シキニ至リ新教徒ハバラチチト侯フレデリックヲ首領
 トシ舊教徒ハパウエーリア侯マクシミリアンヲ首領トシ各同盟
 ヲ結ンテ相拮抗セリ然ルニマサイアス帝ハ西班牙ト連合シテ舊
 教徒ノ同盟ヲ結ヒケレバ英吉利、佛蘭、及和蘭ハ新教同盟ト氣
 脈ヲ通スルニ至レリ加之佛王ヘンリー四世ノ如キハ大ニ軍備ヲ

整ヒ將サニ兵ヲ出サントスルニ及ヒシカ未タ事ヲ舉ケサルニ刺
 客ノ爲メニ殺サレヌ時ニマサイアス帝ハ益々舊教徒ト結ヒ其信
 者フアーデナンドヲ以テ匈牙利及ポーヒーシアノ王トナシ其新
 教徒ヲ虐待シタリキ是ニ於テポーヒーシアノ新教徒ハ其同盟諸
 邦ノ援助ヲ得紀元一千六百十八年ヲ以テポーヒーシアノ政府ヲ
 顛覆シフレデリック王ヲ載テ其王トナセリフアーデナンド王大
 ニ怒リ西班牙及ヒ舊教徒同盟ノ後援ヲ得テフレテリック王ニ迫
 ル時ニポーヒーシアハ豫期セル英國ノ援助ヲ得ル能ハズシテ大
 敗シ其王位トバラチチトノ一部トマクシミリアンニ奪ハレ
 ヌ

丁抹王兵ヲ日耳曼ニ進ム

時ニ丁抹王クリスチアン四世ハ新教ノ信者ナリシカ和蘭及ヒ英吉利ヨリ軍資ノ補助ヲ得一千六百二十五年ヲ以テ日耳曼ニ侵入ス是ニ於テポーヒーシアノ人ヴァールレンスタインハ日耳曼軍隊ノ總督トナリ西班牙軍ト共ニ之ヲ擊退シ一千六百二十九年リユーベック府ニテ兩國ノ和議ヲ媾シタリ

瑞典王兵ヲ日耳曼ニ進ム

一千六百三十年瑞典王ガスターヴアス二世ハ軍資ノ補助ヲ佛蘭ト英吉利トニ得大兵ヲ擧ケテ日耳曼ニ進入シ速戰連勝ノ結果トシテ新教徒ノ失ヒタル土地ヲ瞬間ニ恢復シタリサレト一千六百三十二年リユッツユンノ戰ニ瑞典王ハ遂ニ戰死シタリ佛兵ノ侵入及ビ三十年戰爭ノ結局

戰爭今ヤ其趣ヲ一變シ佛蘭ハ直接ニ宰相リシエリユーヲシテ兵ヲ督セシメテ日耳曼ニ入りヌオキセンスチールンモマタ日耳曼ヲ侵シヌリシエリユー死スルニ及ビテマザリン其後ヲ承ケ兵ヲ日耳曼ニ駐メヌカクテ日耳曼モ死セリト雖凡三十年戰爭ハナホ帝王ヲ代エ將士ヲ代エ以テ戰爭ヲ繼續セシガ日耳曼軍ハ佛蘭ノ名將チユレン及ビコンデ公ノ爲メニ惱サレ遂ニ和ヲ乞ヒ條約ヲ締約ス實ニ一千六百四十八年ナリ之ヲエストフアーレンノ條約ト云フ

エストフアーレンノ條約

此條約ハ歐洲史上甚重要ナルモノニシテコレニヨリテ日耳曼國內ノ宗教ノ自由ヲ確定シ瑞西及和蘭ノ獨立ヲ公認シ佛蘭ハエル

(五) 三十年戦後ノ佛國ノ隆盛ヲ叙スベシ

ザス、メツツ、フエルヅン等ノ地ヲ取リ、瑞典ハホンメルン、
スタツチン、ブレメン等ノ地ヲ取リテ大ニ勢力ヲ歐洲ニ振ヒ之
ニ反シテ埃西利及西班牙ハ勢力ヲ失ヒヌ而シテ此戦争ノ結果ト
シテ最モ勢力ヲ得タルモノハ佛蘭國ナリ

佛國ノ宰相リシエリユーハ大陸ニ於テハプスバーク家ヲ抑制シ又
海軍ヲ盛ニシテ英吉利ニ抵抗シ以テ歐洲列國ノ第一等國タラント
勉メタリ而シテ内ニハ中央集權ノ制ヲ定メントシ評議會ノ權力ヲ
削リテ國會ヲ召集セズ凡テ自己ノ政策ニ反對セル貴族ハ之ヲ嚴刑
ニ處シテ憚ラザリキ時恰モ三十年戦争ノ末期ニシテ自ラ兵ヲ率キ
出陣シケルカ中途ニシテ死シケレハマザリン之ヲ襲キテ其遺跡ヲ

繼紹シルイ十四世ヲ助ケテ歐洲全土ノ上ニ其勢力ヲ擴張セリ初メ
ルイ十四世ノ位ニ即クヤナホ幼冲ナリケレバ其母アン大后攝政シ
マザリント協力シテ大ニ國勢ヲ強メタリ既ニシテマザリン死スル
ヤルイ十四世躬ラ政ヲ視朕ハ即チ國ナリト揚言シテカヲ國力ノ振
張ト國家ノ尊嚴トニ盡シ其威ヨク全歐羅巴洲ヲ域シタリ王ハマタ
コルベルトヲ用ヒテ財政ヲ整理セシメ工業及ビ航海ノ事業ヲ擴張
シ大ニ商權ヲ海外ニ振フニ至レリサレド華奢ノ風大ニ行ハレ道義
從ヒテ壞敗スルニ至リキ

(六) 英國ニ於ケルルスタユアードノ始祖トハ誰ゾ

英國女王エリサベスノ死ルニ及ビテ嗣子ナカリケレバ蘇格蘭王
ゼームス六世入リテ英國王位ヲ嗣ケリ是ヲゼームス一世ト稱シ英

國ニ於ケルスチユアード朝ノ始祖トナス

(五七) ゼームス一世在世中ノ英國ヲ記セ

ゼームス一世ハ蘇格蘭ノマリーノ子ナリケレバ舊教徒ハ其自己ノ
勢力ヲ張ルノ便アラントセシニ何ゾ謀ラン先王エリサベスノ遺志
ヲ紹キテ却リテ新教徒ヲ保護シタリケレバ紀元一千六百五十年ノ
十一月ニハ舊教徒等ハ相謀リテ國會ヲ爆破セントゾ企テケルサレ
ド事未タ成ラサルニ隱謀露顯シケレバ舊教徒ハ益々酷待セラル、
ニ至リタリ是ヨリサキ王ノ蘇格蘭ヨリ入ルヤ二國ヲ統一セントノ
志望ナリシガ英國々會ハ之ヲ拒ミテ聽サズ又主ノ所爲多ク輿望ニ
背キ遂ニ國會ヲ解散シ議員ヲ罰シタルコトサハアリキ國會爲メニ
議シテ曰ク國會ノ自由ハ英國人民ノ生得ノ權利ナリ各議員ハ言論

ノ自由ヲ有ス又議會ハ議決ニ由ラザレハ議院内ノ言行ハ決シテ罰
セラレ又ハ獄ニ投セラルベカラズトテ議會ノ勢力却テ増長シ二者
ノ間ノ衝突益々甚シキニ至リタリ

(五八) チャールス一世ノ逆政ト其末路トヲ記スベシ

チャールス一世ハゼームス一世ノ子ナリ父ノ志ヲ紹キテ國王神權
主義ヲ執リケレハ政府ト國會トノ争ハ益々烈シカリシ時ニ英國ハ
西班牙ト戦ヲ交ヘケレハ王ハ其軍資ノ支出ヲ國會ニ請求ス國會之
ヲ否決シケレバ王ハ不正手段ヲ以テ金ヲ集メヌ是ニ於テカ國民大
ニ怒リテ古來人民ト君主トノ權利義務ヲ研究シテ建白シテ曰ク國
會ノ協賛ナクシテ金錢ヲ徵集スベカラズ又妄リニ人民ヲ逮捕スル
コトアルベカラズト王之ヲ裁可シタリサレド屢々之ヲ破リ國會ヲ

開カザルコト殆ト十一年益々暴政ヲ行ヒタリ又國教主義ヲ以テ蘇格蘭人ヲ壓制シタルヨリ彼等ハ之ニ抗シテ國境ニ迫レリ王策ノ施スベキナクシテ紀元一千六百四十年ヲ以テ十三ケ年間ニ亘レル長期國會ヲ開ケリサレト議員等ハ王ノ請フトコロヲ聽カザルノモナラズ却テ王ノ暴政ヲ難シテ借ス所ナク遂ニ國會ハ議員ノ同意ナクシテ解散シ或ハ延期スルヲ得ザルコトヲ議決セリ王ハ大ニ怒リテ硬派議員ヲ捕ヘントシテ兵ヲ以テ國會ニ臨ミタレドモ其意ヲ果ス事能ハザリシ人民ハ王ノ行ヲ以テ無禮トシ却リテ國會守衛共ヲ備ヘタリ王即チヨーク府ニ奔リ兵力ニヨリテ國會ニ望マントス國會マタ之レニ應ジ茲ニ大内乱ヲ醸セリ王黨ハ貴族僧侶及ビ田舎紳士等ヨリナリ騎馬黨ト稱ス國會黨ハ商人農夫田舎紳士及ビ僅少ノ貴

族ヨリナリ圓顛黨ト稱ス紀元一千六百四十二年ニエツテ、ヒルニ開戦セシヨリ戦争六年ニ亘リ始メ騎馬黨ノ勝利多カリシカ圓顛黨ノ大將オリワトクロムエルノ鐵壁隊ヲ組織シテヨリ圓顛黨ノ勢力頗ル強大ナ致シチャールス一世ハ遂ニ逃レテ蘇格蘭ニ奔レリ蘇格蘭人王ヲ捕ヘテ之ヲ英國々會ニ引キ渡セリクロムエルハ兵ヲ以テ議院ノ門ヲ守衛セシメ自說ニ反對ナルモノハ一切院内ニ入ルヲ許サス紀元一千六百四十九年ヲ以テ議決シテ王ニ對シテ死刑ノ宣告ヲナセリ王刑ニ臨ミテモナホ人民ハ政府ニ干涉スルノ權利ナシト揚言シタレトモ遂ニ刑場一片ノ露ト消エ失セヌ嗚呼悲イカナ

(九) クロムウエルト共和政府トノ事ヲ記セ

クロムウエルハチャールス一世時代ニ於ケル國會黨ノ大主領ナリ

チャールレス一世ノ刑セラル、ヤ政体ヲ變シテ共和政治トナセリ是ヲコモンウエルスト稱ス而シテ表面上ヨリ見レバ英國ヲ支配スル者ハ國會ニ外ナラズト雖モ實權ハクロムウエルノ掌握スル所タリシナリ時ニ愛蘭ノ王黨蘇格蘭ノ國民マタ英國ニ抗セシモクロムウエルハ悉ク之ヲ平ゲヌ又此時ニ當リテ和蘭人ハ暗ニ船舶ヲ以テ王黨ヲ援クルノ傾アリケレバクロムウエルハ航海令ヲ發シテ和蘭ノ商業ヲ妨ゲ又兵力ヲ以テ國會ヲ解散シ自己ノ意ヲ以テ議員ヲ任命シ自ラ終世ノ都督トナリ政治兵馬ノ全權ヲ握レリサレバ其在世中英國ハ國運益々盛大ニ赴キ威力燦然トシ大陸諸國ノ上ニ輝キタリサレドクロムウエルハ居常心安カラズ常ニ自己ヲ暗殺セントスル者有テ恐レ身ヲ甲冑ニ包ミ毎夜其寢室ヲ變換シタリト云フ嗚呼

心中ノ疾シキ苦悶幾何ゾクロムウエル一千六百五十八年ヲ以テ死ス時二年六十

(108) 王政ノ復古ヲ述ベヨ

クロムウエル死シテ其子リチャード父ニ紹キテ都督トナリシガ統御ノ材ナク國內再ビ擾乱シケレハ國會ノプレスビテリアン教徒ハ其教門ノ恢復ヲ計ラン爲メチャールレス二世ヲ佛國ニ迎ヘテ王トナシ再ビ王政ニ復古セシメヌ

(109) チャールレス二世及ビゼームス二世ノ政治ヲ記セ

チャールレス二世ハ懶惰淫逸ノ君ナリシヲ以テ大ニ内外ノ嘲笑ヲ招キ人望全ク去レリ又國會内ニハ王黨及ビ民黨ノ二黨起リテ相爭フ

コト甚シカリキサレド此王ノ治世ハ英國ノ航海商業繁榮シ種々ノ製造所建設セラレ茶及ビコーヒー等ノ嗜好品輸入セラレ一千六百六十年ニハ王立學會創立セラレテ科學ノ進歩ヲ助クルコト多カリシサテ其死スルニ及ビテゼームス二世紹キテ王位ニ上レリ王ハ只舊教回復ヲ意トセラル、ノミニテ全然失政ナリト云フベキノミサレバ王黨民黨共ニ之ヲ惡ミ一千〇百八十八年ゼームスノ女婿オレンヂ侯ウイリアム三世ヲ紹キ王位ニ即カシムゼームス即チ大印璽ヲテームス河ニ投シ槍惶トシテ佛蘭ニ奔リルイ十四世ニ投ズ

(一〇三) 名譽ノ革命トハ如何

和蘭共和國ノ統領オレンヂ公ウイリアム三世英國人民ニ迎ヘラレテ英國ニ入ルヤ貴族高僧等相會シテ假政府ヲ組織シテ人民ノ權利

ヲ保護スル所ノ權利證ヲ承認セシメ王位ニ即カシムコレヲ名譽ノ革命ト云フ

(一〇四) ウイリアム三世ノ治績及ビ憲章ノ發達ヲ記セ

ウイリアム三世位ニ即キ銳意政治ニ勉勵シ外ハ佛國ノ強大ニ拮抗シテリスウキツクノ條約ヲ定メ内ハ憲法ヲ制定シテ國家ノ富強ヲ計リテ十三ヶ條ノ法令ヲ定メ王權ノ制限ヲ設ケ上下ニ充分ノ權利ヲ附與シ重キヲ國會ニ置ク等後世立憲國ノ模範ヲ示セリコレヲ權利法典ト云フ

(一〇五) 新世界及ビ東洋ニ於ケル英國民ノ膨張ヲ記セ

亞米利加殖民地ニ於テハ移住民ノ増加スルト共ニ外國特ニ佛蘭殖民地トノ間ニ衝突ヲ來シタレトモ漸次ニ其區域ヲ擴張シテヴァー

ジニヤ、マサチエーセツト、メリランド、コンネチカツト、ロードアイランド、ニュージャージ南カロライナ、北カロライナ、ペンシルバニア、デラエーア、ニューハンプシル、ジョルヂヤ、及びニューヨルクノ十三州ニ及ビ東洋ニテハ印度ニ於テマドラス、カルカッタ及ボンベー等ノ要地ヲ領シ、カハムーガル帝國ノ分裂ト歐洲列國間ノ戰爭トハ更ニ次第ニ英國ノ勢力ヲ増加セシムルノ動機トハナリヌ

(二五) 殖民地ニ於ケル英佛ノ戰爭及ビ其結果ヲ記セ

始メ印度ニ於テハ佛國ノデエブレト等大ニ勢力ヲ有セシモ英國ノ知事クライブ其威ヲ挫キ終ニボンデイチエリーヲ陥レ悉ク佛領ヲ奪ヒマタベンガル侯ヲ破リテ更ニ諸侯王ノ地ヲ掠取シ威ヲ全印度

ニ振ヘリ亞米利加ニ於テモ亦佛軍ト衝突シ終ニ其軍ヲ破リ其領地ヲ略シ條約ヲ巴里ニ結ビテ全カナダノ地ヲ英國ノ手に握ルコト、ナレリ

(二六) 露帝ピーター大帝ノ事業ヲ記スベシ

ピーター大帝ハ性粗剛ニシテ活潑ナリ又強固ナル意志ヲ有シ露西亞ヲシテ文明的強大ノ國タラシムルヲ以テ第一ノ目的トナシ能ク之ヲ成サンニハ根本的ニ爲サルベカラサルヲ悟リ一切ノ文明的事物ニ由テ之ヲ得ントノ見識ヲ有セリ而シテ又謂ヘラク露西亞ノ強大ナルコト能ハサルハ只海岸ナキニヨルトナシ日耳曼伊太利等ヨリ工匠ヲ聘シテ船艦ヲ造リ紀元一千六百九十六年ヲ以テ土耳其ト戰ヒアゾーフヲ取リテ黒海ニ出ツルノ端緒ヲナセリ是ヨリ益々

造船航海ノ業ヲ獎勵シ又自ラ日耳曼和蘭及英吉利等ヲ巡歴シ親シク造船ノ術ヲ得テ歸リヌカクテ益々意ヲ海軍ノ擴張ニ注ギシガバラチツク海ニモ門戸ヲ得ントスルノ希望ヨリ瑞典ノチャールス十二世ト衝突ヲ來シピーター帝ハ波蘭及丁抹ト密約ヲ結ビテ兵ヲ出シ瑞典ヲ侵セリチャールス王ハ先ツ丁抹ト和シテ露軍ヲ破リ次キテ波蘭ヲ攻撃ズピーター帝ハ瑞典ノ虛ニ乘シテセント、ピータースボルグ府ヲ創立シテ北方ノ經營ヲ計レリ時ニ紀元一千七百〇三年ナリ其後瑞典王ハ再ビ兵ヲ進メテ露國ニ入リシガ大敗シテ遂ニ土耳其ニ逃レヌ王ハ土耳其ニ客タルコト三年微行シテ國ニ歸リ兵ヲ諾威ニ交ヘシガ不幸ニシテ敵彈ニ斃レケレバ北方ノ大勢力ハ茲ニ露國ニ歸シ瑞典ヨリバラチツク海ニ面セル土地ハ多ク其領スル

トコロトナリピーター大帝ノ宿志ヲ遂ケヌピーター帝ハ戰爭中ト雖モ國家ノ開明ニ注意シテ大ニ内治ニ改革ヲ加ヘ新ニ軍隊ヲ組織シ海軍ヲ興シ法律ヲ制定シ學校ヲ盛大ニシ商工業ヲ獎勵シ水道ヲ通シ道路ヲ修繕シ印刷機ヲ輸入シタル等全然野蠻未開ヲ以テ擯斥セラレタル露國モ一躍シテ開明ノ民ト呼ハレヌ眞ニピーターノ功ナリケレバ其死スヤ之ヲ大帝ト稱シヌ

(二七) 露國ノ東方經略ヲ記スベシ

十六世紀ノ頃ヨリコサツク兵ハ西比利亞ヲ侵シツ、アリシガ其後益々歩ヲ進メ河畔ノ要地ニトムスク、エニセースク、ヤークツク等ノ堡寨ヲ築キツ、東方ニ進メリ十七世紀ノ前半ニハオーホツク海ニ達シカムチャツカニ渡リシガ其一隊ハアームール河畔ニ達シ

テアールバーユーンノ地方ヲ占領シイルクーツク、チルチンスク等ノ堡寨ヲ築キタリキサレト清國之ニ異議ヲ插ミケレバ紀元一千六百八十九年ヲ以テ此地方ヲ還附セリ後ピーター大帝ノ代ニ及ンテ通商條約ヲ清國ニ結ビキピーター大帝ハ更ニ中央亞細亞ニ垂涎シ裏海及西比利亞ノ兩方面ヨリ遠征ヲ試ミタリシガ成ラザリ

(二〇) 西班牙嗣位ノ戰ヲ記スベシ

初メ西班牙王チャールス二世子ナシ其妹マリガレット、テレサト
埃太利帝レヲポールドトノ間ニ生レタル從弟ヲ以テ世子トセシモ
早世セシカバチャールスハ遺言シテ其妹マリア、テレサト佛蘭王
ルイ十四世トノ間ニ生レタルアンヨウ公ヒリツプヲ立テ、王タ

ラシ、然ルニ埃帝ハ異議ヲ唱ヒテ其第二子チャールスヲ立テ、王
タラシメントセリ是ニ於テ戰鬪ハ二國ノ間ニ開カレヌ歐洲列國ハ
謂ヘラクヒリツプニシテ西班牙ニ王タラバ其幼冲ナルヲ以テ佛王
ルイ十四世ハ親ラ二國ノ政柄ヲ執ラン然ルトキハ二國ノ勢力ヲ聯
合シテ爲メニ權力ノ平衡ヲ失セントナシ莫吉利和蘭葡萄牙及ビ普
魯西ノ諸國ハ歐羅巴全洲ノ同盟ヲ作リテ佛國ニ抗議シ遂ニ佛兵ヲ
破リ又佛王力屈シテ將ニ和ヲ請ハントスルニ當リテ恰モ埃帝死シ
ヌシヨヤフ次キテ王タリシモ又直チニ死シケレハ西班牙王ニ擬セ
ラレツツアルチャールスハ埃帝ノ位ニ上リヌ是ニ於テ列國マタ思
ヘラク西班牙王ヲ兼テシムルハマタ權力ノ平衡ヲ失フモノナリト
ナシ佛西ノ二國ハ統一スベキモノニアラズトノ約ヲ結ビヒリツプ

ヲ立テ、西班牙國王ノ位ヲ祚マシメ茲ニ此戦局ヲ結ビス
(二兄)七年戦争トハ如何

原因

初メ煥帝チャールレス六世死シテ男系斷エケレバ其女マリーテ
レサ位ニ即キシニバツアリア公之ニ反對シ佛國マタ公ヲ援ケヌ
時ニサキノニー公ハ自己繼承ノ權利アリト稱シテアッリー、テレ
サト相争ヘリ普魯西王フレデックハ此葛藤ニ乘シテシレジアヲ
侵シテ之ヲ取レリ英王ハテレサヲシテ此シレヨアヲ取ルコトヲ
拒マシメヌ然ルニ佛王ハフレデリックヲ佐ケテ英國ニ當ラシメ
ケレバ英國ハフレデリックト和シ紀元一千七百四十八年ヲ以テ
エ、ラ、シヤメルニ條約ヲ結ビ普魯西ハシレヨアヲ得タリ然ルニ

戦争

マリー、テレサハ一意ニ軍備ヲ勉メシレヨアノ地ヲ恢復センコ
トヲ務メヌフレデリックモマタ銳意兵馬ヲ訓練シ内政ヲ修メケ
ルガ未タテレサノ勢力ニ敵スベカラサルヲ以テ私ニ英國ニ結ビ
テ之ニ反對セントス佛ハ此形勢ヲ察シテテレサト同盟シ更ニ露
西亞サキノニート結ビ普魯西ヲ亡ボシ英國ヲ懲サントセシハ此
七年戦争ノ原因ナリキ

紀元一千七百五十六年ヲ以テ戦ハ開カレヌ時ニ英國ハ佛國ト殖
民地ニ戦ヘルヲ以テ普國ニ十分ノ應援ヲ與フルコト能ハザリケ
レハフレデリックハ孤身ニシテ歐洲大半ヲ敵トセザルヲ得ザル
ニ至レリ大膽不敵ナルフレデリックハ決然奮起シテ敵ヲ八方ニ

受ケ戰鬪數回或ハ勝チ或ハ敗レタレドモ常ニ堅忍剛毅ヲ以テ百
難ヲ排シ時ニハ全敗又爲スベカラザルニ至リシコトアリ或ハ英
國ノ軍資ヲ助ケザルコトサヘアリテ流石ノフレデリックモ將サ
ニ自殺セントシタルコト二回ニ及ビタリキサレト彼ノ確乎タル
精神ト應變ノ機智トハ絶望ノ際ニ希望ヲ與ヘ彼ヲ奮起セシムル
コト幾度ナルヲ知ラズスカリシ内ニ露西亞ニテハカザリン二世
死シテピーター三世繼キ却テフレデリックヲ援クルニ至リケレ
ハ遂ニ敵軍ヲシテ境外ニ退カシムルヲ得タリ

終局

紀元一千七百六十三年英國ト佛國トハ和ヲ巴里ニ議シ普露西埃
太利トハヒューベルツブルグニ條約ヲ結ビ終ニシレシヲ得テ

歐洲大國ノ一ニ算セラル、ニ至リタリ

(二〇) 七年戦争後ノ普露西ノ形勢ヲ記セ

フレデリックノ堅忍ノ英氣ヲ以テヨク七年ノ長キニ堪エ遂ニ其目
的ヲ達シ得タレドモ人口ハ減却シテ都市ハ寂寥トナリ田野ハ荒蕪
シテ人民其生ヲ難シトス是ニ於テカフレデリックハ貧者ヲ恤ミ兵
馬地ノ租稅ヲ免ヌル等心ヲ民力ノ休養ニ務メケレハ農工ノ業漸ク
起リ商業マタ發達シテ國庫充足シ人口繁殖シ普露西亞ノ國運隆々ト
シテ強大ニ赴キキ

(二一) 波蘭ノ分割ヲ記スベシ

波蘭王アウグストス三世死シテ其繼嗣未ダ定ラズシテ國內搔擾ス
此時ニ乘シテ露帝カザリンハ名ヲ國內ノ平和ヲ恢復スルヲ名トシ

テ兵ヲ此國ニ送ル元來波蘭ハ羅馬教ヲ奉スルモノ多ク露帝ノ希臘
教及ヒ新教ヲ許容セントスルニ不滿シテ乱ヲ起シ、ニ土耳其ハ兵
ヲ出シテ之ヲ援ケタリカザリンハ奇貨居クベシトナシ直ニ兵ヲ出
シテ土耳其ノ境ニ入りクリミアヨリ多瑙河畔ニ至ル其勢威甚々熾
ナリ埃太利ト普露亞トハ大ニ其恐ルバキヲ覺リ窃ニ土耳其征伐ヲ
止メシメント謀リ露帝ヲ勸誘シテ波蘭ヲ分割スベキヲ以テス露帝
乃チ波蘭ヲ三分シテ三國之ヲ領スルコト、ナシヌ時ニ紀元一千七
百七十二年ナリ後内乱屢々起リタレドモ常ニ三國ノ爲メニ鎮壓セ
ラレ一千七百七十五年ヲ以テ波蘭ハ一時全ク滅ビタリキ

(二三) 米國ノ獨立戰爭ヲ記スベシ

源因

英國政府ノ虐待

英國領ニ屬スル十三洲ノ米國人ハ其農工ノ發達スルニ隨エテ國
力富擔ナルニ至リシカバ英國政府ハ證券令ヲ發シテ苛稅ヲ徵集
セントセリ加之英國政府ハ長ク此國ノ商利ヲ壟斷シタリシ事ナ
リケレハ殖民地ノ人民ハ遂ニ之ニ堪エズト抗抵セリ是ニ於テ英
國政府ハ此法令ヲ撤去シタレ共再ヒ苛酷ナル茶稅ヲ賦課シタリ
殖民地ノ決議

米國人曰ク我等ノ富饒ハ我等ノ勞力ニヨリテ得タルノ報酬ナリ
本國政府如何ゾ我等ノ金囊ヲ視フノ理アラシヤト一千七百七十
四年九月ヲ以テ十三州ノ委員ヲヒラデルヒヤニ會シテ殖民地ノ
自治權ヲ得ルマデハ本國トノ通商ヲ中止スル旨ヲ議決セリ

戦争

端緒

マサチユースェット州ノ市民ト英國ノ軍隊トノ衝突

米軍ノ總大將ト軍隊

ワヨルジ、ワシントンヲ仰キテ獨立軍ノ總大將トナシ壯者皆兵

ヲ手ニシテ軍隊ヲ組織ス

米國ノ宣言ト決議

紀元一千七百七十六年獨立ノ宣言ヲ公布シ十三州ハ永ク亞米利

加合衆國トシテ結合スルコトヲ決議ス

歐洲列國ノ米國援助

米國ハ密使ヲ露西亞ト抹普露亞和蘭西班牙及佛蘭ノ諸國ニ遣ハ

シテ援助ヲ乞フ各國ミナ同情ヲ米國ニ寄セ兵器軍資等ヲ贈リテ

暗ニ之ヲ輔タリ就中佛蘭西ハ兵士ヲ送り軍資ヲ給シ其貴族ヲ

エーエトハ推身シテ米國ニ渡航セリ又普露西ノスチューベン

波蘭ノコシアスユーモ亦渡米シテコレヲ佐ケヌ此他志士仁人ノ

米國ヲ佐クルモノ少カラザラン

英國ニ對スル三國同盟

佛蘭政府ハ公然米國ノ獨立ヲ承認シ西班牙ト共ニ三國同盟ヲ結

ビテ英吉利ト開戦ス

英國ノ傭兵

英國ハ米國ノ獨立軍ヲ鎮壓スルニ足ルベキ兵數ナキヲ以テ日耳

曼諸侯國ヨリ傭兵ヲ募レリ然レトモ此兵ハ金銀ヲ心トセル米軍

ノ敵ニアラザリキ
英國ノ和蘭ニ對スル挑戰
和蘭ハ亞米利加ニ向ヒテ通商ヲ營ミケレハ英國ハ之ニ對シテ宣
戰ヲ布告タシリキ

結局

戰爭九年ニ亘リテ米軍ナホ未タ屈セサルノミナラス其勢却テ振
フニ至リ英軍遂ニヨークターンニ大敗シ其意氣大ニ挫ケヌ時ニ
内閣マタ更迭シタリケレバ紀元一千七百八十三年ヲ以テ國際談
判ヲ巴里ニ開キツキテ平和條約ヲヴァーセルスニ結ビ合衆國ノ
獨立ヲ承認シ佛國ニハターバーゴローヲ與ヘ西班牙ニハフロリダ
及ビシノルカラ與ヘテ事務局ヲ結ビタリ

(二三) 合衆ノ國組織ヲ述ベヨ

紀元一千七百八十七年新憲法ヲ制定シテ合衆國ヲ以テ聯邦組織ト
ナシ各洲自治ノ憲法ヲ定メテ政府及ビ議會ヲ設ク而シテ中央且府
ニハ國會ヲ設ケ大統領ヲ置クノ組織ナリサテ國會ハ各洲ヲ代表セ
ル元老院及人民ヲ代表セル元老院及人民ヲ代表スル衆議院ヨリ成
リ大統領ハ複選法ニヨリテ選舉スヘキコト、ナシ獨立戰爭ノ大總
督ジョージワシントンヲ以テ第一世ノ大統領ト定メヌ紀元一千
七百九十一年新都ヲ經營シテワシントント名ケヌ

(二四) 十八世紀下半ニ於ケル世界ノ狀勢ヲ概叙スベ

爭亂トシテハ波蘭ノ分割合衆國ノ獨立戰爭等アリタレドモ全般ヨ

リ云フトキハ寧ロ靜謐ナリシト云フベキナリ科學文學ハ發達シラ
 プレースノ天文說リンキー氏ノ植學分數學等最モ著名ナリシモノ
 ナリ哲學ニハ獨逸ノカント佛蘭ノヴエルテアー英吉利ノベンザン
 等有名ナリ文人ニハ獨逸ノクロツプストツク英吉利ノジョンソン
 ゴールドスマイス等アリ經濟學者トシテハ佛蘭ニクネー出テ、重農
 旨義ヲ主張シ英吉利ニアダムスマイス出テ富國論ヲ著ハシ生産分業
 ナ説キタリ蓋シ今日ノ經濟學ノ基礎ヲナセルモノナリ又政治學ニ
 ハモンテスキュー出テ、立法司法行政ノ三權ノ分立ヲ説キ萬法精
 理ヲ著ハシタリ又佛蘭ノルーソトハ民約編ヲ著ハシテ社會ノ平等
 均一タルベキコトヲ説キタリ又帝王ニシテ學ヲ好ムモノ少カラス
 普露西ノフレデリック王露西亞ノカザリン女帝等ノ如キハ其尤ナ

ルモノナリキ

(二五) カザリン女帝ノ事ヲ記スベシ

カザリン帝ハ始メピーター三世ノ后ナリシガ當時貴族等ガ帝ノ政
 治ニ不平ナルヲ機トシ帝ヲ殺シテ其位ヲ篡立シカザリン二世ト稱
 シタリカザリンハ文學ニ長シ才略ニ富ミシカバヨク教育ヲ政勵シ
 治ヲ改革セリ加之外國ニ對シテ偉大ナル希望ヲ抱キ先ツ普露西
 ト連合シテ波蘭ニ干涉シ埃太利ト共ニ之ヲ分領セリ當時波蘭ハ土
 耳其ノ助ヲ得タリケレハカザリンハ兵ヲ土耳其ニ進メテクリミヤ
 國ヲ略取セリ又陸上ニテハブルゲリヤ地方ニ侵入シテ其屬邦ヲ作
 リヌ蓋シ露國ノ今日ノ勢アルモノハカザリン女帝ノ遺功マタ尠少
 ニアラザルナリ

第六編 現世史

(二六) 佛國ノ革命ヲ促進セル三大名士トハ如何

諷刺ノ才ニ富ミテ巧ニ當時ノ宗教ノ腐敗ヲ指摘シタルハヴオルテ
アナリ主トシテ服ヲ政治ニ注キ當時ノ政治ヲ痛罵シタルハモンテ
スキューナリ社會ノ弊風ヲ論シテ最良ノ政体ハ民主共和ニアリ
トナシ自由平等ノ主義ヲ唱道セルハルソーナリ此三名士コソ實
ニ佛國ヲ根本ヨリ改革セシメルノ第一動機ヲナセルモノリナキ

(二七) ルイ十五世ノ失政ヲ記セ

ルイ十五世ハ其晩年放肆ニ陥リ逸樂ニ耽リ嬖臣ボンバヅール、
バルリー等政朝ヲ專ニ奢侈ヲ極メ且無用ノ兵ヲ動カシテ隣國ト
事ヲ構ヘシカバ國帑大ニ糜乱シ之ヲ償ハンガ爲メ種々ノ徵稅ヲナ

(二八) 佛國財政困難ノ狀況ヲ叙セ

シタリ而シテ其法僧侶貴族ヲ免シテ唯々下民ニ向ヒテ収斂ヲ逞ク
シタリケレバ自由平等ノ風浪ハ更ニ一層ノ激怒ヲ加ヘ佛國ヲシテ
マスノ危機ニ近ツカシメヌ

ルイ十六世ノ代ニ至リテ佛國ノ財政ハマスノ困難ニ陥レリ何ト
ナレハ當時平民ハ己ニ苛稅ニ堪エズタ、僧侶貴族ヨリ徵稅スルノ
一法アルノミナレトモ王ハ柔弱ニシテ果斷ノ資ニ乏シケレバ進ン
デコレヲ實行スルノ勇氣ナカリシガツルゴノ之ヲ試ミントシケレ
トモ成ラズ次キニチツケル之ニ代リテコ、ニ着手シタルニ貴族ノ
怒ヲ招キテ其職ヲ退キ又次キニカローン之ニ代リテ財政官トナリ
公債ヲ募集シテ一時ヲ繼縫シタリシガ却リテ國家ノ信用ヲ害シノ

一タブルノ議會モマタ好果ヲ得ル能ハザルノミナラズカローンハ英吉利ニ逃レ議會ハ尋キテ解散セラレヌカローンニ次テ相トナリシハドブリアンニシテマタ租稅ヲ増シテ財源トナサントシタレドモ遂ニ失敗シテ職ヲ退キヌ

(二九) ノータブルノ議會及カローンノ失敗ヲ記セ

ノータブルノ議會ハ貴族僧侶官吏等ヨリ組織セラレタルモノニシテ市府ノ代議士ハ僅カニ二三アルノミナル所謂縉紳會ナリキサテカローンハチツケルニ代リテ財政官トナリタレ共國家ノ信用全ク地ニ墜チタルノ後トテ國債ヲ起サントスルモ之ニ應スル者ナカリケレハノータブルノ議會ヲ開キテ貴族僧侶等ニ課稅セントシタレドモ腐敗ヲ極メタル彼等ハイカデカ之ヲ通過セシムベキ一言ノモ

トニ否決シテ却リテカローンノ財政官タル價值ナキヲ罵リス

(三〇) 平民ノ漸ク勝利ヲ得タルコトヲ記スベシ

第一段

チツケルヲ以テ相トナシ紀元一千七百八十九年五月ヲ以テ國民ノ議會ヲ召集セラレタルコト

第二段

國民議會開カレタレドモ貴族僧侶ハ平民ト共ニ一堂ニ會合セシコトヲ拒ミタリシガ平民ハ自ラ議長ヲ選舉シテ平民議會ト稱シ階級ヲ打破シテ一堂ニ會スルニアラザレバ新ニ課稅スルモ一切之ヲ肯セズト論ヲ終ニ貴族僧侶等ヲシテ共ニ一堂ニ會合セシメ

第三段

平民漸ク權利ヲ得ケレバ先ツ自治制ヲ巴里ニ布キ市長ヲ定メテ共和政ヲ行ヒケレバルイ十六世ハヴエルサイユニ退キチツケルヲ黜ケヌチツケルハ國民議會招集ノ着唱者ニシテ平民黨ヨリ管テ信用ヲ得タルモノナリケレハ人民ハ兵ヲ執リテ先ツパスチールノ獄ヲ破リ囚人ヲ救ヒ出シテ火ヲ囚獄ニ放チヌ此時人民既ニ主權ヲ握リチツケルヲ召還シ國王ヲ巴里ニ迎ヒ來リヌ

第四段

貴族僧侶ハ巴里ノ騷擾ニ悲キ皆境ヲ越エテ逃レタレトモ此擾乱ハ全國ニ及ビ乱民ハ四方ニ起リテ貴族ノ邸宅ヲ燒キ城寨ヲ破壞シ火ヲ寺院ニ放ツ等乱暴狼籍ヲ極メテ租稅ヲ出サ、リケレバ貴

族ハ其私益特權ヲ失ヒ寺院ハ其所領ヲ失ヒ四民ノ平等宗教ノ自由ニ、ニ全ク承認セラレタリ

王權全ク地ニ墮ツ

當時國內飢饉ニシテ衆庶堵ニ安ンゼザル際ナリケルガ廷臣ハ平民ノ次第ニ權力ヲ得ルニ疑懼シ兵ヲヴエルサイユニ集メテ自ラ衛リ且盛宴ヲ開キテ將士ヲ稿ヒケレバ細民群ヲナシテ王宮ニ闖入スルニ至レリラフアエツト馳セテ王宮ヲ援ヒ暴民ヲ逐ヒケレドモ群民王ニ迫リテ巴里ニ歸ランコトヲ請ヒケレバ王ハ止ムナク巴里ニ販リテチユイルリー宮ニ入りヌ爾來ヤ、平穩ナリシガネツケルハ位ヲ去リテ瑞西ニ退キミラボー又次キテ死シ皇族貴族モ悉ク國外ニ逃レケレバ今ヤ王ハ全ク頼ムトコロナク遂ニ意

ヲ決シテ港ニ王宮ヲ遁レ出テタリシガ途ニ捕ヘラレテ再ビ巴里ニ歸リ一時王權ヲ停止セラル、コト、ナリマ時ニ紀元一千七百九十一年ナリキサテ平民議會ハ此年ノ九月ヲ以テ新憲法ヲ制定シ王ヲシテ之ニ署名欽定セシメタリ茲ニ於テカ王權全ク地ニ墜サヌ

(三) 革命時代ノ三黨トハ如何

一ハロベスピールノ率ウル處ノシヤコピンニシテ過激ナル共和主義ヲ持シ一ハマラー、ダントン等ノ率ウルコルデリールニシテロベスピールノ卒ウルトコロト大差ナシ巴里府中ノ暴民ト共ニ殘虐ヲ逞クシタルハ此二黨ナリ次ハラファエツト、パーイー等ノ率ウルフエーヨンニシテ立憲王政ノ主義ヲ持シタリ

(三) 佛蘭西ノ革命ニ對スル隣邦ノ態度如何

隣邦諸國ノ帝王ハルイ十六世ノ非運ニ同情ヲ寄セルノミナラス其革命思想ノ蔓延シテ自國ノ海安ヲ妨害センコトヲ恐レ此運動ニ反對スルモノ尠カラズ就中普露西ト奧太利トハ兵ヲ出シテ佛蘭ニ攻メ入り共和黨ヲ鎮撫セント謀リシカバ佛國政府ハ之ニ向ヒテ開戦ヲ宣布セリ時ニ紀元一千七百九十二年ニシテシロント黨ノ政權ヲ掌リシトキナリ此戰多クハ利アラズ巴里ノ人民ハマス、動搖シケレバ其罪國王ニアリトナシ之ヲ幽閉シ立憲王政ノ主義ヲ持セルモノ千有餘人ヲ殺シタリキ尋キテ國王ニモ死刑ヲ宣告シギヨチーノ斷頭機ヲ以テ其命ヲ斷ツニ至リキ是ニ於テカ各國今ヤ默止スル能ハス英吉利西班牙和蘭日耳曼瑞典及ビ露西亞等モ皆聯合シテ

革命軍征服ノ軍ヲ出シ八方ヨリ佛蘭ノ國境ニ侵入シタリ佛蘭ハ之ニ應シテ直ニ三十万ノ兵ヲ募集シテ之ニ當リ時ニ或ハ敗ヲトリシユトナキニアラザレドモ多クハ佛軍ノ勝利ニシテ革命軍ノ作戰計畫ハ頗ル美事ナリト云フベキモノナリキ

(三三) 九月ノ殘殺トハ如何

紀元一千七百九十二年九月二日ヨリ同七日ニ至ル六日間ノ殘殺ヲ云フナリコハ共和主義ヲ持セル人民ノ自己ノ黨派ニアラザル嫌疑ヲ有セルモノ及ビ貴族ノ害ニ遇シモノニシテ其數凡ソ三千人ニ及ビキト云フ

(三四) 過激黨ノ殘虐及其末路ヲ記スベシ

過激黨ノ殘虐ハ紀元一千七百九十三年ヲ以テ最モ甚ダシク其自黨

ニアラザルモノハ老若男女ヲ問ハス悉ク之ヲ屠リ鮮々タル血ハ流レテ河ヲナシ壘々タル首ハ積ンデ丘ヲナスナント府ノ如キハ三ヶ月ノ間ニ殺サレタル人數ハ實ニ一万五千ノ多キニ及ビ人々一日トテモ其生命ノ安キ心ヲ保テル日トテハナカリキ故ニ此時ヲ呼ビテ佛國ノ恐怖時代トモ云フナリ女后マリーモ亦此難ニ遇ヒテ死シヌサレド斯カル殘忍酷薄ナルモノニ對シテ天帝爭デカ之ヲ看過セシヤ過激黨ノ首領タルマラーハ遂ニ一少女ノ爲メニ刺サレダントンハ其政友ロベスピールノ爲メニ殺サレヌロベスピールモ又安ゾ銳ヲ良スベケンヤ遂ニギョチーンノ露ト消エヌ自業自得ト云フベキナリ

(三五) 斷頭機ニギョチーンノ名ヲ命シタル所以如何

革命時代ニ於テハ其一日ニ斷ツトコロノ頭首幾何ナルヲ知ラズヤ
 レバ最モ迅速ニシテ最モ輕便ナル斷頭機ナカルベカラス是ニ於テ
 ギョチーンナルモノ此機ヲ發明ス是ヨリ此機ヲ名ツケテギョチー
 ント云フ

(二五) 佛國ノ都督政治トハ如何

過激黨漸ク亡ビテ國民集會ノ復舊トナリシロント黨員ヲ召還シテ
 新憲法ヲ定メ五人ノ都督ヲ置キテ政ヲ執ラシメ元老院ト下議院ト
 ニ立法ノ權ヲ托シタリ此時王政黨マダ漸ク起リ叛旗ヲ掲ケントシ
 ケレハ時ノ政府ハ不世出ノ大英雄ナボレオン ボナバルトヲ擧ケ
 テ之ヲ鎮壓セシメタリキ時ニ紀元一千七百九十五年十月ナリキ

(二七) ナボレオンノ少時ト其頭角ヲ顯シタルコト

ナ記セ

ナボレオン ボナバルトハチャールズ ボナバルトノ第二子ニシ
 テ紀元一千七百六十九年地中海ノ一小島コルシカニ生ル幼ニシテ
 ツリアンノ兵學校ニ入り年甫メテ十六歳ニシテ砲兵少尉トナリ其
 實力ト手腕トニヨリテ漸ク頭角ヲ顯シツローン市民ノ勤王ヲ唱ヘ
 テ英國ニ通セントスルヤナボレオンハ共和黨ニ與ミシ之ヲ討チテ
 功アリキ時一千七百九十三年ナリ爾來ナボレオンハ共和黨ノ將校
 トシテ奇功ヲ建ツルコト少カラザリキ一千七百九十六年都督政治ノ
 命ヲ受ケ伊太利ニ出陣セリ之ヨリナボレオンノ名聲更ニ大ニ揚リ
 ナボレオンノ手腕更ニ益顯ハル

(二八) ナボレオン初度ノ外戰如何

ナポレオン初度ノ外戦トハ先ツ伊太利ニ出陣シタルコトヲ云フベ
キカ當時都督政府ハ聯合軍ニ敵センガ爲メ三大軍ヲ編製シテ之レ
ニ當ラシメヌ時ニナポレオンハ其一軍ヲ率キテ伊太利ニ向ヘタリ
是ヨリサキニ伊太利ニアリシ佛軍ハ兵站繼カス食缺乏シテ困難ノ
境ニアリタリシガナポレオンノ來ルニ及ビテ大ニ生氣ヲ得戈ヲ伊
太利ニアル埃軍ト交エテ之ニ勝チ轉シテ日耳曼ニ入り途ニ地ヲ得
テ凱旋セシハ一千七百九十七年ナポレオンガ二十八歳ノ時ナリキ
(二二九) ナポレオンノ埃及征伐ヲ記スベシ

ナポレオンノ伊太利ヨリ凱旋スルヤ聲望日ニ高ク爲ルニ都督政府
ノ懼ル、所トナリシガナポレオン自ラ請フテ英吉利領ナル埃及ヲ
征シテ印度ヲ討ツノ段階トナサント請ヘヌ政府ハ其遠ク去ルヲ喜

ビ直ニ其請ヲ聽シケレバナポレオン先ツアレキサンドリヤニ上陸
シ進ンテカイロ府ヲ陥レ全ク埃及ヲ征服シタリ然ルニ其海軍ハ英
ノ海軍トナイル河口ナルアボキルニ戦ヒケルガ大ニ英將チルソ
ンノ爲メニ敗ラレ軍ヲ班ヌニ殆ト船艦ナキニ至リヌナポレオン乃
チ亞刺比亞ノ沙漠ヲ涉リテバレスタインニ侵入シ再ヒ軍ヲ埃及ニ
班シタリキ

(二三) ナポレオンノ政機ヲ握リシ由來ヲ叙スベシ

ナポレオンノ埃及ニアルヤ英露埃ノ三國ハ同盟シテ佛蘭軍ヲ伊太
利ヨリ逐ヒ出シ佛蘭ノ先キニ略取セル地ヲ恢復シ頗ル佛蘭軍ヲ苦
メケリナポレオンコレヲ聞クヤ竊カニ軍艦ニ乗シテ佛蘭ニ歸レリ
時ニ國內播擧シテ統一スルトコロナク五人ノ都督モ又如何トモナ

スナキノ有様ナリケリナボレオン乃チ元老院ニ入リテ其憲法ノ不
 完全ナルヲ非難シ又衆議院ニ入リテ議員等ノ失政無能ナルコトヲ
 呵叱シタリキ是ニ於テ衆皆ナボレオンノ過言ヲ責メ彼ハ國家ノ秩
 序ヲ乱スノ大賊ナリ宜シク斃スベシナド、ワメキ渡リケレバナボ
 レオンハ走リテ門外ニ出テ待タセ置キタル將士ヲ顧ミ揚言シテ曰
 ク今日諸君我カ爲メニ戈ヲ執ルカト將士皆曰ク豈將軍ノ爲メニ死
 セザランヤト直ニ議場ニ闖入シ議員ヲ逐ヒ拂ヒ議會ヲ解散シ次キ
 テ舊憲法ヲ廢シテ新憲法ヲ制定シ都督政府ヲ顛覆シテ一人ノ議政
 官ト二人ノ副官トヲ置キ以テ國政ヲ執ルベキコト、定メ乃チ己レ
 自ラ上リテ議政官トナリ以テ萬機ヲ總裁ス時ニ紀元一千七百九十
 九年ナボレオンガ三十歳ノ時ナリキ

(三三) ナボレオンノ内政ヲ叙スベシ

ナボレオンノ議政官トナリテ佛國ヲ其手裏ニ握ルヤ自己ノ權勢ノ
 鞏固ナランヲ計リテ新聞ノ檢閲ヲ嚴ニシ政談集會ヲ嚴禁シ財政ノ
 改良ヲ計リ將士ノ歡心ヲ得ントゾ務メケリ次キテ宗教ヲ起シ教育
 ヲ盛ナラシメ道路海港ヲ修シ建築ヲ起シ大ニ人民ノ便利ヲ得セシ
 メ以テ一國ノ美ヲナセリ又法律ヲ編成セリ世ニナボレオン法典ト
 云フ是レナリ

(三三) ナボレオンノ皇帝トナリシユトヲ叙セヨ

始メ議政官ノ任期ヲ十ケ年ト定メテナボレオン其職ニ上リシガ紀
 元一千八百〇二年元老院ノ議決ニヨリテ終身ノ議政官ニ上リ一千
 八百〇四年元老院ノ投票ニヨリテ遂ニ佛蘭皇帝ノ位ニ上リ又其年

ノ十二月ノイートルダムニ於テ羅馬法皇ノ加冠ヲ受ケス

(二三) ナポレオンノ勢力ニ對スル各國ノ意向如何

ナポレオン未タ議政官トナラザルノ前英吉利ノ宰相ピットノ議ニヨリテ露西亞、埃太利、土耳其、葡萄牙及ビネーブルスハ同盟ヲ結ビテ佛蘭ヲ攻メケレバ佛軍到ル處ニ敗北シケルカナポレオンノ議政官トナルヤ先ツ露西亞ヲ説キテ其同盟ヲ脱セシメヌ露帝ハ瑞典丁抹等ト北部同盟ヲ結ビテ英吉利ニ敵セリ是ニ於テカナポレオンハ一軍ヲ日耳曼ニ出シ別ニ自ラ一軍ニ將トシテ伊太利ニ入り以テ埃西利ノ軍ニ酬セント欲ス紀元一千八百年四万ノ兵ヲ以テアルプス山ヲ越エテ伊太利ニ出現シ埃太利ノ軍ヲ破リテ伊太利ヲ恢復シタリ時ニ日耳曼ニ向ヒタル軍モ亦勝ヲ得タリケレバニユーセル

(二四) ナポレオン全盛ノ狀況ヲ叙セヨ

紀元一千八百十年前後ハ蓋シナポレオンガ全盛ノ時代ナリトス當時西歐羅巴ハ殆ト其權力ノ下ニ服從シ兄弟及ビ自己ノ將校ハコレ

ランド及ビライン左岸ノ地ヲ得テ和ヲ構シヌ斯クテナポレオンノ勢力ニ屈セザリシハタゞ英國ノミナリシガナポレオンハコレヲモ征服セントテ先ツハノヴマーヲ占領シタリ是ヨリサキ露帝死シテアレキサンドリヤ一世位ニ即キテ英國ト同盟シ埃太利瑞典モマタ之ニ加盟セリ是ニ於テナポレオンハ先ツ埃太利ニ侵入シテ日耳曼ヲ蹂躪シ埃露ノ連合軍ヲアウステルリツクニ破リヴエニス及伊太利ノ數地ヲ取リヌサレト海軍ハトラフアルガールニ於テ英將子ルソンノ爲メニ大ニ破ラレ全ク海上ノ權利ヲ失フマデニ至リヌ

ガ王トナリテ其移置轉封皆ナポレオンノ心ノマヽナラザルハナシ
 前シテ佛蘭帝國ハ伊太利ノ大部及日耳曼西半トニユーゼルランド
 領有シナールポーリ王國及ビ西班牙ハ其弟ノ王タルトコロ丁抹ハ
 其連合スル所而シテ埃太利ハ其姻戚タリシ嗚呼人生ノ得意想フベ
 キナリ、

(三五) ナポレオンノ英國ニ對スル方策ヲ述ベヨ

ナポレオン歐洲全土ヲシテ殆ト其足下ニ拜伏セシメタリト雖モ獨
 リ英吉利ノミハ其國境ノ要害ト海軍ノ強大トヲ特ミテナポレオン
 ナ輕蔑スルコト依然タリナポレオン之ヲ征服セシメントスレドモ
 海軍ノ以テ之ニ敵スルナキヲ如何ニセン乃チ大陸制度ノ令ヲ發シ
 列國ヲシテ英吉利トノ通商ヲ禁シテ之ヲ苦メント企テヌ

(三六) 佛露ノ戰ヲ記セ

原因

1、佛軍ノバルチック海岸ヲ併吞スルヤ露帝ノ近親ウオルデン
 プルクノ領地ヲ奪ヘシトヨリ佛露ノ交情コヽニ破レヽニ
 至リシコト

2、大陸制度ノ不利ナルヲ見テ露國トノ貿易ヲ開始セルコト

戰爭

露西亞ノ同盟

英吉利、土耳其、瑞典、

佛蘭、連衡

普露亞、埃太利、

佛ノ進軍

紀元一千八百十二年五月五十万ノ兵ヲドレスデンニ會シ露西
亞ニ向ヒテ三道ヨリ並ビ進ム

露ノ作戰

佛軍ノ進撃ニ向ヒテ敢テ戰ハズコレヲ誘フテ深ク内地ニ入ラ
シメ其モスコイ府ニ達セントスルヤ火ヲ全府中ニ放チテ悉ク
灰燼ニ歸セシメ佛軍ノ宿ルニ家ナク食フニ糧ナカラシメヌ時
漸ク寒氣加ハリケレバナポレオンハモスコイ府ヲ退キテ師ヲ
班サントスコレ露ノ會テ計畫セルトコロニシテ之ヲ途上ニ要
シコサツクノ騎兵ヲ以テ追撃ス

結果

飢餓ニ苦メラレ寒烈ニ惱メラル、佛兵ハ寒威ヲ事トモセザル
コサツク兵ノ爲メニ散々斬リマクテ死者十二万五千トゾ註
セラレヌ此他凍餒ノ爲メニ死シタルモノ十三万捕虜トナリシ
モノ十九万ナリシト云フ

(三三) ナポレオンノ帝位ヲ黜ケラレシユトヲ記セ

ナポレオンノ露國ニ敗北スルヤ聲望漸ク去リテ今ヤ歐洲諸國ハ皆
一齊ニ帝ニ抗スニ至レリ乃チ久シク壓抑ヲ蒙レル普露亞ハ第一着
ニ露西亞ニ結托セリ埃太利モマタ佛國ニ向ヒテ宣戰ヲ布告シタ
リ此時英將ウエリントンハ西班牙ニ駐屯セル佛兵ヲ敗リテ佛ノ南
境ヲ侵シスナポレオン戰能ク勝ツト雖モ巴里ニ推シ寄スル各國ノ
軍勢ハ堤防ヲ潰決セル怒濤ノ如ク埃露瑞等ノ聯合軍ハ益々勢ヲ

得テ進ミ寄セヌ時ハ一千八百十三年秋十月ナリキナポレオン之ヲ
 ライプチツピニ逆ヒ劇戰三日ニ亘リテ佛軍遂ニ大敗シナポレオン
 ハ夜ニ紛レテ逃レヌ是ニ於テ聯合軍ハ八方ヨリ巴里ニ攻メ入りケ
 レハ新ニ兵ヲ募リテ屢々之ヲ破リタリシモ衆寡敵スル能ハズシテ
 巴里遂ニ陥リヌ佛ノ元老院ハ議シテナポレオンノ帝位ヲ褫ヒ之ヲ
 エルバ島ニ流シヌ時ニ紀元一千八百十四年ノ四月ナリキ

(三六) 佛國ノ再ビ王國トナリシコトヲ記スベシ

ナポレオンヲエルバ島ニ貶謫スルト同時ニ先キノ佛王ルイ十六世
 ノ弟ルイ第十八世ヲ迎ヘテ佛國ノ王ト定メキコハ元老院ノ議決ニ
 ヨルト雖モ皆聯合軍ノ指道ニ出デタルモノナリ

(三六) 百日乱トハ如何

ルイ十八世ノ王位ニ上ルヤモト佛國民ノ輿望ニヨルモノニアラザ
 ルニ王ハ再ビ王家ノ舊態ニ復セントセヨリ民心睽離シ内政マタ
 將サニ乱レントスルノミナラズ聯合軍ノ諸王候ハ維也納府ニ會シ
 其疆域ヲ定メントスルニ當リ列國相讓ラズシテ爲ニ確執ヲ生シマ
 タ將サニ干戈ヲ動カサントシケレバエルバ島ニ呻吟シタル廢帝ナ
 ポレオンハ機以テ乘ズベシトナシ密ニ脱シテ佛蘭ニ上陸セリ人民
 兵士ハ之ヲ歡迎シ天地ヲ撼カス鯨波ト共ニ巴里ニ騎リ入り直ニル
 イノ王位ヲ退ケ再ビチユイルリー宮ニ政ヲ見ルニ至レリ時紀元一
 千八百十五年三月十五日ナリ是ニ於テ同盟諸國ハナポレオンヲ以
 テ破法者ト宣告シ英將ウキリントンヲ總督トシナポレオントワ
 トルローニ會戰ス決戰終日佛軍遂ニ敗レナポレオンハ英軍ノ捕ヲ

ルトコロトナリテ遠ク亞非利加洲ノセントヘレナ島ニ流サレヌ時
恰モ六月ニシテナポレオンノ上陸シタリシヨリ殆ト百日ナリケレ
ハコレヲ百日乱トハ云フナリ

(二四) 竄後ノナポレオンノ敗後ノ佛國ト同盟軍ノ後

仕末ヲ記スベシ

ナポレオンハ熱海中ノ孤島ナルセントヘレナニアリテ抑ヘ得サ
ルノ英氣ヲ抑フルコト六年享年五十有二ヲ以テ病ミテ死セリ嗚呼
マタ英雄ノ末路ナルカナサテナポレオンヲセントヘレナニ流スヤ
ルイ十八世ヲ復位セシメテ王トナシ其境域ヲ定メテ一千七百九十
年ノ舊ニ復セムメタリ而シテ同盟諸國ハ會議ヲ埃都維也納ニ開キ
テ左ノ結果ヲ得タリ

埃太利 ミランヲ回復シテヴェニス伊太利等ヲ得

普魯西 ヴォルソーノ一部サクソニヤノ大部ボメレーニヤ等得ヲ

日耳曼 三十九國及四自由市府ヲ以テ日耳曼聯邦ヲ組織シタリ

英吉利 モールタ、ヘリゴラント及ビ喜望峯ヲ得アイオニア

共和國ノ保護者トナル

和蘭 白耳義ト合シテネザールランド王國ヲ組織ス

露西亞 ヴォルソーノ大部ヲ得

瑞典 那威ヲ併セテ瑞典那威ノ聯合國ヲ組織ス

丁抹 ラウエンブルグヲ得

瑞西 聯邦數ヲ増加ス

而シテ戰亂中ニ廢セラレタル各國王ハ皆舊位ニ復スルコト、ナレ

(二四) 希臘ノ獨立ヲ記スベシ

希臘ハ當時土耳其其府ノ監督ノ下ニアリシガ之ニ對スルコト暴虐ナリケレハ遂ニ獨立ノ兵ヲ舉クルニ至リタリ初メ希臘國民ハ露帝アレキサンドリヤ一世ノ宗教上ノ同情及政略上ノ利益ヨリ來援アラシコトナ期シテ兵ヲ舉ケタリシモ其援助ナクシテ一敗地ニ塗レタリ然レトモ希臘各洲ニ於ケル叛徒ノ氣焰ハ猶熾ニシテモレア、リヴイデアノ民ハ土耳其ニ抗シテ屈スル色ナク終ニ國民議會ヲ開キテ憲法ヲ制定シ大統領ヲ立テタリ時紀元一千八百二十二年ナリ爾來幾多ノ戰爭アリシガ一千八百三十年ヲ以テ希臘ノ獨立ハ關係諸國ノ決議スルトコロトナリ一千八百三十二年バヴェリアノ

公子オーソーヲ希臘王トナシ翌年都チアゼンスニ移シ茲ニ希臘王國ノ獨立確定シタリキ

(二五) 佛蘭ノ七月革命トハ如何

佛蘭ハ王政復古以後守舊黨自由黨共和黨ナポレオン黨等ノ諸政黨アリシガ政府ハ守舊黨ノ手ニ落チテ專制抑壓ノ政ヲ施シタリ殊ニチャーレス十世ノ王位ニ上リシヨリ更ニ其暴威ヲ逞クシケレハ政府ハ民望ヲ失ヒ紀元一千八百三十年ノ國會總選舉ニハ自由黨員ノ多數ニ選出セラル、ヲ見ルニ至リタリ是ニ於テチャーレス十世ハ悉ニ改選ヲ命シ言論ヲ束縛シ兵力ニ訴ヘテ之ヲ執行セント試ミタリ大革命ノ夢未タ全ク醒メザルノ佛國人民爭デカ能クコレニ服従スベキ民論ハ大ニ激昂シ巴里ノ市民ノ如キハ自ラ兵ヲ携ヘテ起チ

一舉シテ政府ヲ顛覆セシメタリ時ニ共和黨員ハ直ニ共和政府ヲ建
 テントテ下等社會ノ人民ト共ニ之ヲ首唱シタレドモ中等社會ノ人
 民ハナホ王政ヲ主張シテオルレアン侯ルイフィリップヲ迎ヒテ王
 トナシ憲法ヲ修正シテ民權ヲ鞏固ニナセリ之ヲ七月革命トハ云フ

(二) 白耳義ノ獨立ヲ記スベシ

ナポレオンノ黜ケラル、ヤ各國公使ハ列國會議ヲ埃都維也納ニ開
 キ列國ノ疆域ヲ定ムルヤ白耳義ヲ和蘭ニ合併シ之ヲチザールラント
 王國トシテ和蘭王ヲシテ之ヲ統治セシメシガ歴史及宗教上ノ關係
 ヨリシテ一致スル能ハズ白耳義人民ハ不平鬱勃トシ禁ズル能ハス
 會々佛國ニテ七月革命ノ擾乱アリケレハ白耳義モ遂ニ叛旗ヲ掲ケ
 ラ別ニ國民議會ヲ開キ和蘭王ニ請フテ從來ノ政策ヲ改メントス和

蘭王之ヲ聽カヌ却ヘテ兵ヲ以テ之ニ迫リケレバ革命黨ハ撃テ之ヲ
 却ケ白耳義議會ハ茲ニ獨立ヲ宣言セリ是ニ於テ諸強國ハ公使ヲ倫
 敦ニ會シテチザールラント分國ノ事ヲ議シ其境域ヲ定メシム是ニ於
 テ白耳義ハ遂ニ獨立シテ一王國トナリサクス、ツールブルグ公レ
 オホルトヲ迎ヘテ國王トナシ都ヲブラツセルニ定メヌ

(三) 波蘭ノ滅絶ヲ記スベシ

維也納會議ノ結果トシテ波蘭ハ一ノ王國トナリテ露西亞監督ノ下
 ニ屬シタリシガ人民ハ古王國回復ノ念ヲ絶タズ私ニ佛蘭ノ援助ヲ
 得テ紀元一千八百三十年終ニ兵ヲ擧ケ露軍ヲ放逐シテ假政府ヲ設
 ケヌ而シテ翌三十一年ニハ其獨立ヲ宣言セリ是ニ於テ露國ハ兵ヲ
 遣ハシテ之ヲ攻メ其首都ワルソヲ陷レヌサテ露帝ハ悉ク叛民ヲ

西比利亞ノ曠野ニ放チ波蘭人ノ銃器ヲ有スルヲ禁シ其教育其宗教
ヲモ盡ク露國トナシ永ク波蘭ノ名ヲ世界ノ地圖上ヨリ除キ去リヌ

(二五) 佛國ノ二月革命トハ如何

佛王ルイ、フイリップハ其即位ノ始ノヨリ共和黨ナポレオン黨及
ビブルホン黨ノ敵ヲ有セシガ遂ニハ極端ナル共和黨ヲモ生シタリ
是ニ於テ政府ハ漸ク言論ヲ束縛シテ此等ノ運動ヲ抑壓シタレハ人
心ハ次第ニ政府ト離レタリ加之其外交政策モ常ニ民望ヲ失ヒ危機
漸ク迫レリ紀元一千八百四十八年二月國民ハ國民議會議員選舉法
改正ノ爲メニ改正宴會ヲ巴里ニ開カントスルヤ政府ハ之ヲ禁シタ
リシガ人民遂ニ暴動シテ假政府ヲ建テ共和政治ノ建設ヲ宣言セリ
サテ此革命ニ狂奔セルモノハ最下民ナリケレハ政府ハ國立工場ヲ

設立シテ無職業ニ勞動スベキ事業ヲ與ヘ一定ノ賃金ヲ給スルコト
、ナシタリケレバ財用膨大シテ財政上大ニ困難ヲ來シタリケレハ
遂ニ之ヲ鎖スコト、ナリ更ニ憲法ヲ改定シテ大統領ヲ人民中ヨリ
公選シタリキ當時此選舉ニ當選シタルハナポレオン、ボナパルト
ノ姪ルイ、ナポレオン乃チ後ノ第三世ナポレオンナリキ

(二六) クリミヤ戰爭ヲ記スベシ

此戰爭ハ露西亞ノ慾望ヨリ出テタリト云フベキナリ當時土耳其ハ
其國勢振ハス殆ト垂死ノ人ト云フベキ様ナリケレハ露帝ハ此病人
ナル土耳其ヲ得ントシテ英國ニ告グルニ英國ハヨロシク埃及ヲ得
ベシ我ハ土耳其ヲ保護國トシ一時其ノ都ヲ占領スベシト説キシガ
英吉利ハ之ヲ拒ミタリケレバ露帝ハ土耳其ニ向テ其國內ニ於ケル

希臘教徒ノ保護權ヲ要求シ之ガ擔保トシテ其地ノ一部ヲ占領セリ
 是ニ於テ露土宣戰ヲ公布シテ開戰セリ時ニ土耳其ハ援ヲ佛國ニ求
 メケレハルイナボレオンハ直ニ之ニ應シ英國マタ土耳其ヲ援ケテ
 宣戰ヲ露西亞ニ告ケヌサテ英佛土ノ連合軍ハ千八百五十四年ノ九
 月ヲ以テクリミヤニ上陸シ交戰一ケ年ニメセバストポールノ要害
 ヲ陷レヌ時ニ露帝アレキサンドリヤ二世新ニ位ヲ嗣キテマタ戰意
 ナシ是ニ於テ和ヲ佛都巴里ニ議シ露ヲシテ土耳其ニ於ケル希臘教
 徒及ヒ多腦沿岸諸國ノ保護權ヲ棄テシメ土耳其ハ基督及ビ回々兩
 教徒ニ同權ヲ與フルヲ約シ又黑海ヲ公開シ魯國船艦ノ制限ヲナセ
 リ

(三) 伊太利ノ統一ヲ記スベシ

當時伊太利ハ殆ト埃太利ノ領地ニ屬シタリシガサルヂニアノ賢相
 カヴール政ニ當リテ銳意内治ノ改良ニ從事シ伊太利統一ノ業ヲ遂
 ケンドゾ期シタリケリ是ニ於テ紀元一千八百五十八年佛帝ルイナ
 ボレオン密約ヲ結ビ普露西ト親ミ伊太利ノ革命黨ガリバルヂーノ
 義勇兵トモ結托シ遂ニ佛蘭ト共ニ埃太利ニ向ヒテ宣戰ヲ布告セリ
 紀元一千八百五十九年大ニ埃太利ニ勝テケルガ佛帝ハ急ニ埃太利
 ト和シベニスノ外ロムバルヂヲサルヂニアニ與ヘ他ノ諸國ト伊太
 利聯邦ヲ組織スルコト、ナシヌ伊太利ノ北部ハ漸ク結合一致ヲ見
 ルニ至リタレドモチープルス及ビシ、リー島ハ依然トシテ專制ノ
 下ニ屈從シタリシガ千八百六十年ガリバルヂー、シ、リーニ來リ
 テ全島ヲ平ゲ更ニチープルスヲ侵シマモニト合マテ國王ヲ追ヒ更

ニ進シテ法王領國ニ進撃シ遂ニ羅馬ニ入レリサルヂニア王モ兵ヲ督シテ法王領ニ入り親シクガリバルデート會シ自ラチーブルスノ王位ニ就ケリカリテ紀元一千八百六十四年九月約ヲ佛國ニ結ビテ都チフルレンスニ遷シ王ヲ伊太利ニ稱シヌ是ニ於テカ伊太利全ク統一セリ

(二兎) 英國ノ東方經營ヲ述ブヘシ

英吉利ハ印度ニ於テ其勢力ト領土トヲ擴張シ紀元一千八百二十四年ニ新嘉坡ヲ得一千八百三十九年ニ雅典ヲ占領シ更ニ進ミテ我近海ニモ出沒シ一千八百四十年ニハ鴉片戰爭ニヨリテ香港ヲ割取シテ其領地トナシヌ

(二兎) 露西亞ノ東方經營ヲ述ブヘシ

露西亞ハ十七八世ノ頃ヨリカムチャツカ及アラスカヲ占領シ又樺太島ニモ上陸シ我國ニモ通商ヲ求メタリキ又中部亞細亞ノ方面ニ向ツテハ次第ニキルギス種族ヲ服屬シテヒーヴアノ遠征軍ヲ出シタリキ此ハ紀元一千八百三十九年ノコトナリ

(二五) アフガニスタンニ於ケル英露ノ衝突ヲ記セ

紀元一千八百二十七年露軍ノ波斯ヲ破リテヨリ波斯ハ露西亞ニ依賴シ一千八百三十七年其後援ヲ得テアフガニスタンニ侵入セリコノ時英吉利ノ印度總督ハアフガニスタント同盟セントシテ露人ノ妨害ヲ受ケケレバ軍ヲ出シテ其首府カブールヲ滔レ其主ヲ更迭セシメテ和親ヲ結ブコト、ナリヌ

(二五) 亞米利加ニ於ケル南北戰爭ヲ記セ

原因

奴隸問題

北米合衆國中南部ニ屬スル部分ハ土地肥沃ニシテ氣候良好ナレバ奴隸ヲ驅使シテ穀物綿等ノ耕作ヲ勉メ大ニ利益スルトコロアレトモ北部諸州ニ至リテハ氣候寒冷ニシテ土地不毛ナレバ専ラ製造業ニ従事シテ自由労働者ヲ用キ奴隸使役ノ必要ヲ見ズ且人身賣買ハモト天理ニ戾ルノ業ナレバ北部人民ハ奴隸使役ハ天理ニ背キ建國ノ主義ニ戾ルモノナリトナシ其廢止ヲ唱ヘテ止マヌ遂ニ紀元一千八百〇八年ヲ限リテ奴隸ノ輸入ヲ禁セリサレド奴隸保存論者ハナホ奴隸ヲ保存セントテ百方盡力ニ爾後五十餘年ノ間兩者共ニ勢力布殖ニ餘念ナカリキ

戰爭

紀元一千八百六十年南部諸州ハ斷然北部諸州ト分離シ翌年ヲ以テ戰端ヲ開キヌ初メハ南部ノ勢力頗ル盛ニシテ北軍ヴァージニアニヤニ敗レケレハグラント將軍ヲ總督トシテ之ニ當ラシメヌ是ニ於テ形勢漸ク一變シ一千八百六十五年ニ至リ南部ノ敵將遂ニ軍門ニ降り茲ニ此戰爭ノ局ヲ結ブニ至レリ

結果

未タ戰局ヲ結ブニ先チテ時ノ合衆國大統領リンコルンハ奴隸廢止令ヲ發布シタリシ此影響ニヤ内亂鎮定後未タ久シカラザルニ刺客ノ爲メニ殺サレヌ

(二五) 墨西哥ノ騷擾ヲ記スベシ

墨西哥ハ紀元一千八百三十五年ヲ以テ合衆國ト戰ヒ其敗ルトコ
 トナリテテクサスヲ失ヒ一千八百四十四年ニハ更ニニューメキシ
 コ及ビカリフォルニアヲ失フニ至リテヨリ爾來内乱常ニ止マス其
 餘波此地ニ居留セル外國人ニ損害チ及ボスコト多カリケレバ其賠
 償ヲ約シタリシガ久シクシテ未タ履行スルニ至ラザリキ是ニ於テ
 紀元一千八百六十一年英吉利、佛蘭、西班牙ノ三國ハ同盟軍ヲ組
 織シテ之ヲ懲シタリキ然ルニ英西二國ハ佛帝ナポレオン三世ノ野
 心ヲ抱ケルヲ知リ一千八百六十二年墨西哥ガ償金支出ヲ約スルヤ
 輒チ此同盟ヲ解キ又然ルニナポレオン帝ハ合衆國ノ内亂ニ乘シ佛
 國ノ保護ニヨレル帝國ヲ墨西哥ニ建テント欲シ續々兵ヲ派遣シ
 テ其首府墨西哥ヲ陥レ埃太利帝ノ弟マクシミリアンヲ其皇帝トナ

シタリキ然ルニ墨西哥國內ナル共和黨ハ之ニ心服セザルノミナラ
 ス合衆國政府ハヨニアレッツヲ抹ケテ墨西哥ニ入ラシメナポレオン
 帝ノ舉動ハ曾テ大統領モンローガ定メタル外國ノ亞米利加全列國
 ノ内政ニ容喙スルモノハコレ合衆國ヲ敵トスルモノナリトノ旨義
 ニ抵觸スルモノナリトナシナポレオンニ迫リテ其撤兵ヲ強請シタ
 リケレハナポレオン帝モ又止ムコトナシトナシ紀元一千八百六十
 七年ヲ以テ其兵ヲ召還シタリマクシミリアンハ獨リ茲ニ止マリテ
 其位ヲ保タントナシタリシガ共和黨ノ爲メニ殺サレ再ヒ共和政治
 ヲ墨西哥國ニ施スコト、ナリヌ

(三三) ナポレオン三世ノ東方經營ヲ記スベシ
 ナポレオン三世ハ頻リニ國威ノ振揚ヲ務メケルガ紀元一千八百五

(二五) 普埃ノ戦争ヲ記セ

十六年アローロノ事件ニヨリ英吉利ト支那トノ間ニ葛藤ノ生スルヤナボレヲオハ英吉利ト聯合シテ戦ヲ支那ニ營ミ天津條約ヲ結ブニ至リキ一千八百五十九年ニハ安南ト開戦シ一千八百六十二年ニ柴掘地方ヲ取り一千八百六十七年ニハ盡ク交趾地方ヲ略取シヌ

始メ普埃聯合シテ丁抹ヲ攻メ普露亞ハシユレスヴィヒヲ取り埃太利ハホルスタインヲ取ル事トナリシガ紀元一八百六十六年埃太利ノホルスタインニ對スルノ處置ヲ不法ナリトシテ之ヲ占領シタリケレハ戦ハ普埃ノ間ニ開カレヌ此時北部ナル諸小國ハ普露亞ニ與シ南部ナル諸小邦ハ埃太利ニ與セシガポーヒミア及ビライン河畔ノ戦争皆普露亞ノ勝ニ歸セシカバ埃太利ハ和ヲ普露亞ニ請ヒ紀元

一千八百六十六年八月廿三日條約ヲブラグニ結ビヌ

(二五) 普埃戦争ノ影響如何

普埃戦争ノ影響トシテ舊聯邦ノ同盟ハ解カレ北日耳曼聯邦ノ同盟起リ埃太利ハ聯邦中ヨリ除カレテ普露亞其盟主トナリ更ニ兵馬ヲ總攬スルノ權利ヲモ得タリ是ニ於テカ普露亞ノ聲望大ニ揚カル

(二五) 普佛戦争ヲ記スベシ

普露亞ノ聲望漸ク佛蘭ヲ壓セントス滿身名譽心ヲ以テ構成セラレタルナボレオンハ争テガ之ヲ猜マサルヲ得ンヤ會々西班牙ノ王位ハ普露王ノ遠親タルレオポルトニ與ヘラレントスナボレオン機ノ乘スベシトナスヤ之ニ反對シテ日ク凡爾國ハ其國力ノ平均ヲ計ラサルベカラザルニ今ヤ親族兩國ニ王タルハ是明ニ平均ヲ破ルモノ

ナリト是ニ於テカレオポルドハ事ノ大ナランコトヲ恐レテ其王位ニ上ルコトヲ辞退シケルガナポレオンハナホ曰ク宜シク普露亞王ヲシテ正式ニ今後決シテオポルドヲシテ西班牙ノ王タラシムベカラズトノ警言ヲナサシメザルベカラスト普帝之ヲ肯セズナポレオン曰クコレ正シク列國ニ對シテ無禮ヲ加ヘタルモノナリ國力ノ平均ヲ破リテ列國ノ秩序ヲ乱サントスルノモノナリトテ直ニ開戦ノ宣布ヲナセリ普露亞モモトヨリ期スルトコロナリ戦闘ハ直ニ開カレヌ佛軍ハ連戦連敗シヌナポレオン遂ニ普露亞ニ降ル普軍ナホ進ンテ巴里ヲ圍ミメツツヲ陥ル時ニ佛國ノ政治家トシテ有名ナリシガンベツタハ巴里ノ重圍中ニアリシガ輕氣球ニ乘シテ圍ヲ脱シ新ニ軍兵ヲ募集シテ巴里ヲ救ハント試ミタリサレドマタ普軍ノ敗

ルトユロトナリテ一千八百七十一年一月遂ニ陥リフランクフルドニ條約ヲ結ビテ戦争ノ局ヲ終ヘタリ

(二五) 普佛戦争ノ結果及佛ノ復讐的念慮トナ記セ

フランクフルド條約ノ結果トシテエルザス及ピロートリッゲンノ地ヲ普露亞ニ割キナホ五十億フランノ償金ヲ三年間ニ普國ニ仕拂フ事トナリキ是ニ於テカナポレオンハ帝位ヲ廢セラレテ佛蘭國ハ復共和國トナリナポレオンハ英吉利ニ走リテ其生ヲ終ヘヌ斯クテ佛蘭ハ一旦普露亞ニ破ラレタルノ怨恨ハ深ク之ヲ骨髓ニ彫シ寤寢ニモ之ヲ忘レザランコトヲ期シ其小學校ニ使用スル地圖ニモエルザスロートリッゲンノ二洲ニ特ニ一種ノ彩色ヲ施シテ普佛戦争ノ結果トシテ失ヒタル所ナルコトヲ記憶セシメ以テ非普的ノ精神ヲ

養成セント務メツ、アソトゾ

(二六) 英吉利ノ愛爾蘭問題ヲ記セ

愛爾蘭ノ英吉利政府ニ對スル不平ハ常ニ絶ユルコトナキモ其原因トシテ見ルベキ重ナルモノヲ列スレハ左ノ如シ

- 1、愛爾蘭ハ元來舊教徒多キ地ナリ然ルニ英國政府ハ新教ノ寺院ヲ置キテ英國々教教會ヲ以テ愛爾蘭ノ國教ヲナサントスルコト
- 2、愛爾蘭ノ立法ノ施設ハ一ニ英國政府ノ立法宮ニ於テ之ヲ定メ愛爾蘭民ノ慣例ヲ酌マズ希望ヲ察セザルコト
- 3、愛爾蘭ノ地主ノ大半ハ概テ英國人ニシテ其小作人ヲ虐待スルノ甚タシキコト

以上中第一ハ紀元一千八百六十九年ニグラットストン首相トナリテ愛爾蘭ニアル英國々教寺院ノ廢止ノ議ヲ實行シテ其怨ヲ除キ第二ハ自由黨ノ内閣倒レタレハバーネル等ノ提出セル愛爾蘭國會開設案モ否決セラレ第二ノ不平ハ之ヲ伸ブルコトヲ得ズ第三ハ愛爾蘭人生命ヲ堵シテ爭フトコロニシテ爲メニ鮮血ヲ濺キシコト幾度ナルヲ知ラズ自由黨保守黨モタ爲メニ内閣ノ受授サイアリキ一千八百八十五年ニグラットストンノ内閣ノ瓦解シタルモコレガ爲メナリキ

(二七) 英國領ナル印度ノ騷擾ヲ記スベシ

紀元一千八百四十年前後ニ於テ印度ノ各邦ハ概テ英吉利ノ併呑スル所トナリ縮旬モ亦其屬地トナリニキサテ英吉利ハ漸次各自ノ文

物ヲ輸入シテ印度固有ノ弊風ヲ除去スルヲ勉メシガ印度人民ハ英吉利人排斥ノ念ハ茲ニ次第ニ興起シ來リ一千八百五十七年ニ至リテ雇兵一時ニ蜂起シテ叛旗ヲ擧ケタリサレト其叛乱ハ間モナク鎮壓セラレテ此事ニ與リタルムーガル帝ノ裔孫ハ全ク尊號ヲ奪ハレ英國女皇ハ遂ニ印度女帝ト呼ブニ至リキ

(二六〇) 英吉利ノ對埃及勢力ヲ記セ

初メ佛ノナポレオン三世ノ位ニアルヤ埃及ヲ庇護セシカハ彼ハ殆ト自立ノ姿トナリ土耳其帝ニハ僅カニ歲貢ヲ獻ズルノミナリシガ地ヲ南方ニ獲ント欲シテ屢々アビシニア及ビダフオールト戦ヒケレバ爲ニ財政困難ヲ來シ紀元一千八百七十五年其所有タル蘇士運河ノ株券ヲ英國ニ賣ルノ止ムヲ得ザルニ至レリサテ英國政

府ハユレト共ニ財政整理ヲ名トシテ埃及政府ノ顧問官トナリヌ然ルニ佛蘭政府ハ之ヲ喜バザルヲ見テ更ニ兩國ノ委員ヲシテ財政管理ノ任ニ當ラシメ幼弱ナルチューフイク、パシヤヲ擁立シテ益々其内政ニ干涉シ人民ニ収斂セシカバ一國大ニ怨望シアラビバシヤ兵ヲ擧ケテ叛クニ至リ英兵之ヲ捕ヒテ印度ニ流シヌ時ニ佛蘭政府ハ共和トナリテ埃及ニ於ケル權勢ヲ失ヒ英國獨リ此國ノ主權ヲ掌握シ政令一ニ英人ノ手ニ出ヅルニ至レリ一千八百八十三年スーダンノエルマーデーハ埃及ノ虐政ヲ憤リ兵ヲ擧ゲテ之ニ抗シタリケレハ英國ノ首相グラットストンハ埃及王ニ之ヲ棄テヨト勸告シタレトモ王之ニ應セズ兵ヲスーダント構ヒ連戰連敗マタ如何トモスルナキニ至リ哀ヲ英政府ニ乞ヘリ政英府ハ將軍ゴル

トンプソンニ遣リシニ途ニシテ重閉ニ陥リゴルトン終ニ蠻人ノ手ニ倒レヌ是ニ於テ英國人民ハ對埃及政策ノ失策ヲ政府ニ攻メ其内閣ヲ轉覆セシメタリキ

(二六) 露土ノ戰役ヲ記スベシ

露西亞ノ宰相ゴルチャコフハ銳意政治ノ改良國權ノ伸張ヲ謀リ内ニハ宗教言語及思想ノ統一ヲ計リ外ニハ侵略ノ主義ヲ逞クシテ紀元一千八百七十三年キヴアノ半ヲ略シ次ギテトルコマン人ヲ討テテ裏海東岸ノ地ヲ奪ヒ又ユーカンド汗領ヲ攻メテ終ニ之ヲ併吞セリ英國ニテハ一千八百七十四年ヲ以テ自由黨ノ首領グラットストンノ内閣倒仆レ弱氣滿々タル保守黨ノ首領ヂスラエリ其内閣ヲ組織シケレハ先ツ印度ノ兵備ヲ増シ其議會ヲシテ女王ウキクトリア

ニ印度女帝ノ尊號ヲ奉ラシメ露ノ南侵ニ頷頷セリ茲ニ偶々土耳其事件起リテ歐洲諸國外交場裏ニ花ヲ咲カシメ又當時土耳其ハ國政紊乱ノ財政頗ル困難ナリケルカ其北部ニハ基督教ヲ奉ズル斯拉ヴ人多クセルビアモンテチゴロノ如キ半獨立ノ侯國アリ一千八百七十五年ヘルゼゴヴィナノ民土耳其政府ノ重斂ト回教徒ノ迫害トニ苦シミ一擡ヲ起セリモンテチゴロセルビアノ二國ハ陰ニ之ガ後援ヲナシ翌年ニ至リテハ遂ニ反旗ヲ公然ト掲ケヌ列國ハ其仲間ニ周旋シ内政ノ改革ヲ土耳其ニ迫リタルニ事終ニ調ハス此間露國ハモシテチゴロセルビアノ叛民ヲ助ケ土耳其ニ迫リ一千八百七十七年四月露土ノ戰爭ハ開カレヌサテ露ハルーマニヤト結ビテ露軍ノ其國內ヲ通過スルノ自由ヲ得タリケレバ破竹ノ勢ヲ以テ土耳

其軍ヲ破リ多瑙河ヲ渡リヌ時ニ土耳其ノ將オスマンパシヤ勇敢ニ
 テ能ク戦ヒブレヅナ城ニ嬰リテ屢々露軍ヲ苦メゲルガ其後援ナキ
 ヲ以テ城遂ニ陥リヌ又亞細亞部ノ土耳其ニ於テハカルスヲ陥ラレ
 クレバ遂ニ和ヲ露西亞ニ乞ヒ一干八百七十八年三月サン、ステフ
 アノノ條約ニ依リテ多クノ土地ヲ露ニ割讓シ償金三億ルーブルヲ
 出スベキヲ約シセルビア、ルーマニア、モンテネグロノ獨立ヲ認
 可シ又半獨立ノブルガリア侯國ヲ起シ基督教ヲ奉セル侯ヲ置クコ
 トヲ承諾シヌ然ルニ英吉利ト奧太利トハ此條約ニ對シテ嚴峻ナル
 抗議ヲ呈出シ英吉利ハ土耳其ト密約シテ其内政改革及サイプラス
 島割讓ヲ承諾セシメテ之ヲ保護スルコトヲ約シ奧太利ト共ニ兵備
 ナ修メ暗濬タル戰雲ハ全歐ノ天地ヲ覆ヘリ獨逸ノ宰相ビスマルク

ハ爲メニ仲裁ノ勞ヲ取リ露西亞モ亦私ニベコンスフイールド伯ニ
 讓步スル所アリケレバ一干八百七十八年列國會議ヲ伯林府ニ開キ
 サン、ステフアノノ條約ヲ廢棄シ更ニセルビア、モンテネグロ、
 ルーマニアノ獨立ヲ認メブルガリアヲ縮小シ露西亞ノ得ルトコロ
 ハ亞細亞ニ於テ僅カニカルス、パツーム其他二三ノ地ヲ得ルニ止
 メ土耳其朝廷未來ノ擔保トシテボスニア、ヘルゼゴヰイナノ行政
 ヲ奧太利ニ托シ其戍兵ヲ置カシメ又テッサリーヲ希臘ニ割讓シ且
 施政ノ改革ヲ列國ニ約シテ局ヲ結ベリ

(二二) 露土戦争ノ露國ノ國況ヲ叙スベシ

露西亞ハ先キニクリミヤ戦争ニ於テ奧太利ノ自ヲ助ケザリシヲ啣
 ミ奧普戦争ニ當リテハ奧ヲ制肘シテ隱ニ陽ニ普露亞ヲ佐ケ、リサ

レハ露土戦争ノ起ルニ當リテハ蓋シ舊恩ニ酬ユル處アルベキナリト思ヘシニ案ニ相違シテ其宰相ビスマークハ却リテ英ト墺トニ便益ヲ與ヘケレハ露ハ大ニ之ヲ憤レドモ戦後ノコト、ナマタ如何トモスルトコロナケレバ普ノ敵タル佛蘭ニ結ハントセリビスマークハ之ニ對センガ爲メ攻守同盟ヲ墺國ニ結ベリ時ニ佛蘭ハ露帝ニ危害ヲ加ヘテ佛國ニ逃レ來レル虚無黨員ヲ露西亞ニ引渡スコトヲ肯セザリケレバ露佛ノ聯合ハ成ラズシテ止ミタリキ

(二五) 中央亞細亞ニ於ケル英露ノ關係ヲ記セ

露國ハニコラス帝ノ時既ニアフガニスタンノヘラットニ垂涎シタリシガアレキサンダー二世ニ至リテ諸所ヲ征服シ漸クアフガニスタニ迫ラントス時ニ英國ニテハ女王自ラ印度女帝ノ位ニ即キ

其翌年マルヂスタン公ト締約シテカブールノ通路タルクエツタヲ領シタリ然ルニアフガニスタンノシユル、アリ汗ハ之ヲ以テ自己ノ領地ヲ侵畧シタルモノトナシ露國ト結ビテ英ノ使臣ヲ拒シカバ英兵終ニアフガニスタンニ進軍シタリ時ニ紀元一千八百七十八年十一月ナリ然ルニシエル、アリ汗ハ翌年二月ヲ以テ死去シヤニ一
 汗其位ヲ襲クニ及ビ露國ト斷チテ英ニ和セリ後再ビ英政府ト葛藤ヲ生シタリシカ英軍ノ爲メニ敗ラレアフガニスタンハ悉ク英領ニ歸シヌ是ニ於テカ露國南下ノ道絶エタリ

(二六) 社會主義ノ風潮如何

社會主義ハ十九世期ニ起レル風潮トモ云フベキカ佛蘭ニテハブルトン獨逸ニテハラザール、カールマルクス等アリテ社會ノ改造ヲ

唱ヒ英國ニテハ萬國職工協會ナルモノ起リ其主義トスル所ハ社會平均ノ方法ヲ求メテ現存ノ會社改造ヲ以テ目的トナセリ露西亞ニ於ケル虛無黨モマタ一種ノ社會黨ト云フベキカ其行フトコロ頗ル過劇ニシテアレキサンダー二世ハ爲メニ其毒乃ニ斃レタリ

(二五) ビスマークノ佛國孤弱策ヲ記セ

佛國ノエルザス、ロートリンゲンヲ佛露亞ニ割讓シタルハ終天ノ怨恨ニシテ普露ノ恐ル、トコロマタコ、ニアリ然ルニ佛國爾來漸ク兵備整ヘ國帑充チヌ普露亞如何ゾ之ガ備ヲ爲ザルヲ得ンヤ是ニ於テカ宰相ビスマークハ巧ニ其外交政略ヲ操縦シ百方佛國ヲシテ孤立セシメ再ビ復讎ノ師ヲ興ス能ハザランメントシ頻リニ佛國ヲ煽動シテ先ツ伊太利トノ間ヲ割キヌ所謂チユーニス事件コレナリ

次キニ英吉利ト結ハザランガ爲メニ埃及問題ニ干涉セシメ又東京事件、馬島征服、マタビスマークノ陰ニ陽ニ之ヲ指導シタルモノニアラザルハナシ是ニ於テカ佛國遂ニ孤立シ怨ヲ四方ニ構フルニ至レリビスマーク公ノ得意マタ想フベキナリ

(二六) 歐洲ニ於ケル同盟二國トハ如何

歐洲ニ於ケル同盟二國ハ獨逸奧太利伊太利三國ノ同盟ヲ云フナリ
 コレ獨逸ノ宰相ビスマークノ計畫ニカ、ル露佛ニ對スル攻守同盟ナリ紀元一千八百九十年ビスマーク其職ヲ罷メテ退隱スルヤ局面一變シ今ヤ僅カニ其名ヲ存スルノミニシテ其實瓦解セリト云フベキナリ

(二七) 露佛同盟ノ勢力如何

露佛ノ同盟ハ三國ノ攻守同盟ニ對シテ起レルモノニシテ其公然ト世ニ知ラル、ニ至リシハ紀元一千八百九十一年七月佛國艦隊ノ露國軍港クロンヌスタットニ入りシヲ始メトシ一千八百九十三年十月ニハ露國艦隊佛國ノ軍港ツィロンニ入レル等ニ於テ世上皆之ヲ認メ定メヌサテ此露佛同盟ハ威ヲ歐洲ニ振ヒ嘗テサリスベリ一内閣ノ時大ニ露國ニ對シテ反對ノ意見ヲ示シタリシ英國モ今ヤ露佛ノ歡心ヲ得ントゾ務ムルモノ、如シマタ盛ナリト云フベシ

(二六) 極東三國同盟トハ如何

歐洲ニ於ケル三國同盟ハ既ニ名ノミニ屬セリダ、露佛同盟ノミ雄飛ノ姿ヲ表ハセリ是ニ於テカ獨逸ハ切ニ歡心ヲ露國ニ買ヒ三國同盟ヲ放擲セテコ、ニ露佛ノ同盟ニ加ハリ日清事件ニ關係シテコ、

ニ極東三國同盟ナルモノ、組織ヲ見ルニ至レリ

(二九) 英國現今ノ勢力如何

英國ハ昔ヲ歐洲同盟三國ノ接援タリト知ラレケルガ三國同盟ハ蓋シ英國ニ取リテ重シトセル所ニハアテザリシナリ露佛同盟ノ成ルニ及ビテ英國ハ其歡心ヲ得ント務メタレトモ由來佛國トノ怨恨深クシテ到底物相接スルノ望ナク露國トハ利害ノ点ニ於テ絶對的ニ相反スルモノナレハ兩國ノ調和ハ是亦望ムベキ所ニアラザレハ今ヤ英國ハ實ニ孤立ノ狀ヲナセリト云フベキナリ而シテ内ニアリテハ愛爾蘭ノ自治ヲ得ンカ爲メニ其激昂ヲ來シ且其版圖諸方ニ散布スルヲ以テ國防上頗ル困難ナルノミナラズアルノニヤ事件ハ歐洲ニ於ケル列國ヲシテ英國ニ對スル共同ノ運動ヲナサシメトラン

バル事件ハ亞弗利加ニ於テ獨逸ト衝突シベチヨユラ問題ハ亞米
利加ニ於テ合衆國ト衝突セリ嗚呼英國モマタ國事多端ナリト云フ
ベキナリ

(七〇) 希土戰爭ノ顛末ヲ記セ

紀元一千八百九十五年土耳其政府ハアルメニア及ビクレータニ於
ケル基督教徒ヲ迫害シケレハ歐洲ニ於ケル列國ハ大ニ之ニ抗議シ
タレドモ土耳其ハ曠日決スルトコロナカリキ是ニ於テ希臘ハ口
ヲコ、ニ籍リ一千八百九十六年戰爭ヲコ、ニ開ケリ然ルニ希臘ハ
土耳其ノ爲メニ却リテ大ニ敗ラレラツサリ一割キ償金ヲ出シ
テ和ヲ乞ヒヌサテ其結果トシテ希臘ノ財政ハ列強國ノ管理スルニ
コロトナリタリ

(七二) 佛ノ亞非利加經營ヲ記スベシ

歐洲諸強國ノ殖民地ヲ得ントスルノ念ハ寸時モ止マサル處ナリシ
ガ佛國ハ紀元一千八百八十一年ヲ以テチユニスヲ保護國トナシ
サハラ沙漠及ビ其以南ノ地ヲ侵略シテ之ヲ自己ノ領地トナシ先キ
ニ殖民シタリシギニア、アイヴオリ、コースト等ニ聯絡シメタ
リ又一千八百九十五年ニハマダカスカルヲ伐チテ之ヲ保護國トシ
一千八百九十八年ニハ其領地ナルソモールトコンゴトノ兩殖民
地ヲ聯絡センガ爲メニ遠征軍ヲ派遣シタリ此軍ニルノ河上ニ進ミ
フアシ目ダヲ占領スルヤ英吉利ノ抗議ヲ生シ茲ニ其軍隊ヲ班ヌニ
至レリ

(七三) 佛ノ東方經營ヲ記スベシ

ナポレオン三世既ニ交趾地方ヲ其屬地トナシケルガ紀元一
 千八百七十年以來連リニ兵ヲ派シテ恣ニ河内以下ノ地ヲ占領セリ
 蓋シ北部ノ鑛山所在地ニ着目セルナリ一千八百八十三年ニハ遂ニ
 迫リテ全ク佛ノ保護國トナシヌ然ルニ支那ハ安南ヲ以テ其屬邦ナ
 リトナシ大ニ佛ニ抗議シ一千八百八十五年支那ハ開戦シタリ既ニ
 シテ和成リ佛ハ其占領シタリシ澎湖列島ヲ支那ニ返シ支那ヨリシ
 テ安南ニ對スル口實ヲ棄テシメタリ次キテ佛ハ又暹羅ヲモ侵サン
 トシタリシガ是ヨリサキ英國ハ緬甸ヲ併吞シテ尙ホメコン河上ノ
 地ヲ得ントスルノ際ナリケレハ茲ニ英佛ノ衝突將サニ起ラントセ
 リ然ルニ兩國遂ニ交渉協議シテ恣ニ暹羅ノ領土ヲ限リ其抗議ヲ願
 ミズシテ自己ガ分取スベキ土地ヲ定メヌ

(一七) 歐洲列強ノ支那ニ垂涎セルコトヲ記セ

紀元一千八百九十五年馬關條約ナリテ臺灣島及日本兵ノ占領シタ
 リシ遼東半島ヲ日本ニ収ムルヤ露佛獨ノ三國所謂極東同盟三國ハ
 日本ニ勸告シテ其占領セル遼東半島ヲ支那ニ還附セシメ獨逸ハ支
 那ニ迫リテ膠洲灣地方ヲ九十九ヶ年ノ期限ヲ以テ借り用フルコト
 フ諾セシメ露西亞モマタ同期年間旅順口ヲ借ルコトヲ諾セシメヌ
 是ニ於テカ英吉利政府モマタ支那ニ強請シテ日本ノ撤兵セル後威
 海衛ヲ借地トシテ占領シヌ既ニシテ義和團徒ノ亂支那ニ起リ獨國
 公使ヲ殺戮シヌ列強乃チ兵ヲ出シテ天津ヲ占領シ進ンテ北京ニ入
 ル清帝北方ニ蒙塵シ罪ヲ謝シ和ヲ乞フ其謝罪使ノ我が日本ニ來ル
 ハ實ニコレ我が明治三十四年即チ紀元一千九百〇一年九月ナリ

(二五) スエズ運河ノ竣工ヲ記セ

スエズ運河ハ佛國人レセツプ氏ノ設計ニヨリ紀元一千八百六十九年ニ竣工セリ

(二六) キュバノ獨立トハ如何

キュバハ西班牙國ノ領地ナリシガ紀元一千八百九十五年叛旗ヲ掲ケテ久シク平定セズ遂ニ合衆國ハコレニ干涉シテキュバノ獨立ヲ認メンコトヲ西班牙ニ迫レリ是ニ於テカ遂ニ宣戰ヲ公布シタリシカ一千八百九十八年西班牙ハキュバ及ビヒリッピン群島ニ於テ米軍ノ爲メニ粉碎セラレ終ニ其獨立ヲ承認スルニ至レリ

(二七) 赤十字社ノ設立由來ヲ記セ

近世期ニ至リテ種々ノ原因ヨリ人類の感情發達シ種々ノ事業ヲ企

テケルガ戰場ニ於ケル病者及ビ負傷者ノ待遇一變シカ、ル戰鬥力ヲ失ヘル者ハ敵ニテ敵ニアラズ全ク中立的ノ者ナリ是ヲ以テ敵兵ト雖モ其敵軍ノ病院ニ於テ之ヲ治療スルコトナシヌコレナボレオン一世ノ時既ニ佛軍ノ實行セル所ナリシガクリミヤ戰爭ノ時戰爭ノ苦痛ヲ減ゼントテ英吉利ノ貴女フロレンスナイチンゲール嬢大組織ヲ形成ノ病兵及ビ負傷者ノ看護ニ趣キタリ是レヲ赤十字社組織ノ創始トナス是ヨリ各國政府ハ之ニ加入シ軍人等又大抵之ヲ贊成セリサテ第四回赤十字社大會ハバーデン府ニ開カレタリ時ニ歐羅巴以外ノ戰爭ニモ又救護ヲ與フベキカノ問題アリキ時ニ自ラ博愛的耶蘇教國人ヲ以テ自任セル一委員ハ宗教ヲ異ニスル邦國ニハ救護ヲ同様ニ與フル能ハズト論シタリ時ニ我日本ノ委員タル軍醫

總監石黒忠憲ハ憤然トシテ揚言シテ曰ク元來赤十字社ナル者ノ事業ハ國ノ何タルヲ問ハズ共愛ノ主義ヲ以テ事ニ從フハコレ其精神ナラズヤ若シ誤リテ此問題ノ可決セラレタランニハ日本委員ハ出席セザルベシト激論シ將サニ袂ヲ投シテ去ラントス是ニ於テカ露西亞國委員獨逸國委員等モ石黒氏ノ說ニ賛成シ我日本ノ意志ハ貫カレテ眞ニ博愛救護ノ事業トハナリヌ

(二五) 十八世紀以後ニ於ケル哲學者如何

獨逸ノカント氏認識論ヲ首唱シテ一世ヲ啓發シ其後フイヒテ、シエリング、ヘーゲル、ハルトマン、シヨツペンホーエル、スペンサー等相次キテ輩出シ各々一家ノ說ヲ立テタリ

(二六) 十八世紀以後ニ於ケル史學ノ進歩ヲ記スベシ

丁抹人ニイブール氏ノ羅馬史ヲ編述シテ一生面ヲ開キシヨリ獨逸人ランケハ爛々タル眼光ヲ以テ深刻ナル研究ヲ積ミ遂ニ文書ヲ利用シテ世界歴史ノ趨勢ヲ達觀セリ是ヨリ獨逸ニジューベル、ポームガルテン、トライツケ、モムセン等出テ英吉利ニハフリーマン、ガーヂノー等出テ佛蘭ニハテーレン氏等アリテ歴史ノ研究ハ漸ク經濟法律等ノ人事學科ニモ應用セラルノコト、ナリ從來專ラ行ハレタル天則的研究法ヲ壓スルニ至リタリ

(二七) 十八世紀以後ニ於ケル美術音樂如何

十八世紀以來ハ美術音樂等マタ大ニ進歩シ彫刻家ニテミケール、アンソユロ後ノ至大ナル者ハカノーブアリ其繼續者ニハ丁抹ニトールワルドセンアリ英吉利ニシヨンプラツキスマンアリ畫工ニ

ハサー・ジョシユア、レイノルツアリ音楽家ニハ獨逸ニイデンモツ
 アルト及ビベートーフエン等アリ革命戦争ヲ外ニ見テ皆其技ヲ專
 攻セルノ士ナリ十九世紀ニ有テハ獨逸人シユーベルト、ワグネル
 及ビメンデルスゾーン第ハ其名聲ヲ世界ニ博シタル音楽家ナリ又
 詩人ニハ英吉利ノテニソン氏ハ近世的ノ詩人ニシテ巧ニ現時代ヲ
 歌ヒヨシラスキャンハ高尚ナル精神ヲ描出シ亞米利加ノロングフ
 エロー獨逸ノハインリヒ、ハイネ佛蘭ノアレキサンドル、ヂユ
 マ、ビクトル、ユーゴト等皆絶代ノ詩人ト稱セラル

(二〇) 蒸氣力ノ發明ト其應用トヲ記スベシ

蒸氣力ノ應用ハ既ニ第十七世紀ニ於テ之ヲ試ミル者アリシ之ヲ十
 分應用スベク發明シタルモノハ十八世紀ノ末ニ於ケル英國人ワッ

ト氏ナリ爾後之ヲ百般ノ製造ニ應用シ生産力ヲ増大セシメヌ蒸氣
 船ハ十八世紀ノ始メニ於テ佛人バベン之ヲ創造セシガ是ヨリ其考
 究ニ從是スルモノ續々輩出シ第十九世紀ノ始メニ於テハ米國人フ
 アルトン氏大改良ヲ加ヘテ實用ニ供スルコトヲ得タリ又汽車ヲ製
 シテ木製ノ軌道上ヲ運轉スルコトヲ創メシハ第十八世紀ノ始メナ
 リシガ十九世紀ノ始メ英吉利人トリージエシツクハ蒸氣機關ニ大
 改良ヲ加ヘ且綱鐵ノ軌道上ヲ運轉セシメタリ是ニツキテステーブ
 ンソン氏ノ改良アリ爾來遠距離ノ鐵道ノ各地ニ布設セラレ亞米利
 加ニハ令衆國損斷ノ鐵道既ニ其功ヲ竣リ歐洲ヨリ亞細亞洲ヲ橫斷
 スベキ西比利亞鐵道ノ成功スルモマタ將サニ近キニアラントス是
 ニ於テカ世界ノ狀勢漸ク一變セリ

(二八二) 電信ノ發明ト其進歩トヲ記セ

電氣ヲ應用シテ通信ヲ試ミシハ紀元一千八百〇八年獨逸人センメル
リング氏ナリ其後電磁氣ヲ利用スルノ考起リテ一千八百三十三年
獨逸人ガウス氏及ビウエーベル始メテコレヲ實用ニ供シタリ其後
英國人ホイットストン米國人モールス及ビ獨逸人シリング等屢々
改良ヲ加ヘ終ニ今日ノ有様ヲナスニ至リヌ而シテ紀元一千八百六
十六年ニハ大西洋底ノ電線布設ヲ竣工シ今ヤ太平洋底電線ノ布設
工事計畫中ニ屬セリ

(二八三) 醫學ノ進歩如何

科學ノ進歩ハ醫學ノ研鑽ニ大便宜ヲ與ヘ醫藥用法及ビ治療器械ハ
益々進歩シ特ニ細菌學ノ進歩醫學上ニ一生命ヲ開キ接種注射ノ治

療法ハ傳染病ノ豫防ト撲滅トニ顯著ナル效果ヲ奏シタリ

(二八四) 生物學ノ進歩如何

總テノ理學各科ハ第十九世紀ニ於テ大進歩大發明ヲナセルガ上ニ
モ英吉利人チャールス、ダーウキンカ首唱セル種族原始論ハ大ニ生
物學上ニ大影響ヲ與ヘタリ其要ニ曰ク生物ハ現在千差萬別ナリト
雖凡其初メハ或ル僅小ナル生物ノ種々ノ境遇ニ逢ヒテ進化變形シ
適種生存優勝劣敗ノ理ニ由リテ今日ノ狀況ヲナシタリトワレーヌ
オーエンハツクスレー等モマタ大ニ此說ヲ唱道セリコレヲ生物
進化論ト云フ此進化論ハ單ニ生物ノミニアラズシテ世上萬般ノ事
物皆此理ニヨリ説明セラル、コトヲ得頗ル有用ナル學理トハナリ
タリ所謂人類學ナルモノモコレニヨリテ起リ太古歴史ノ傳ヘザル

事物モマタ研究スルヲ得テ其當時ノ狀況ヲ推察スルヲ得ルニ至レ

(二六) 國際上ニ於テハ權力ハ乃チ權利ナリトノ説ヲ記セ

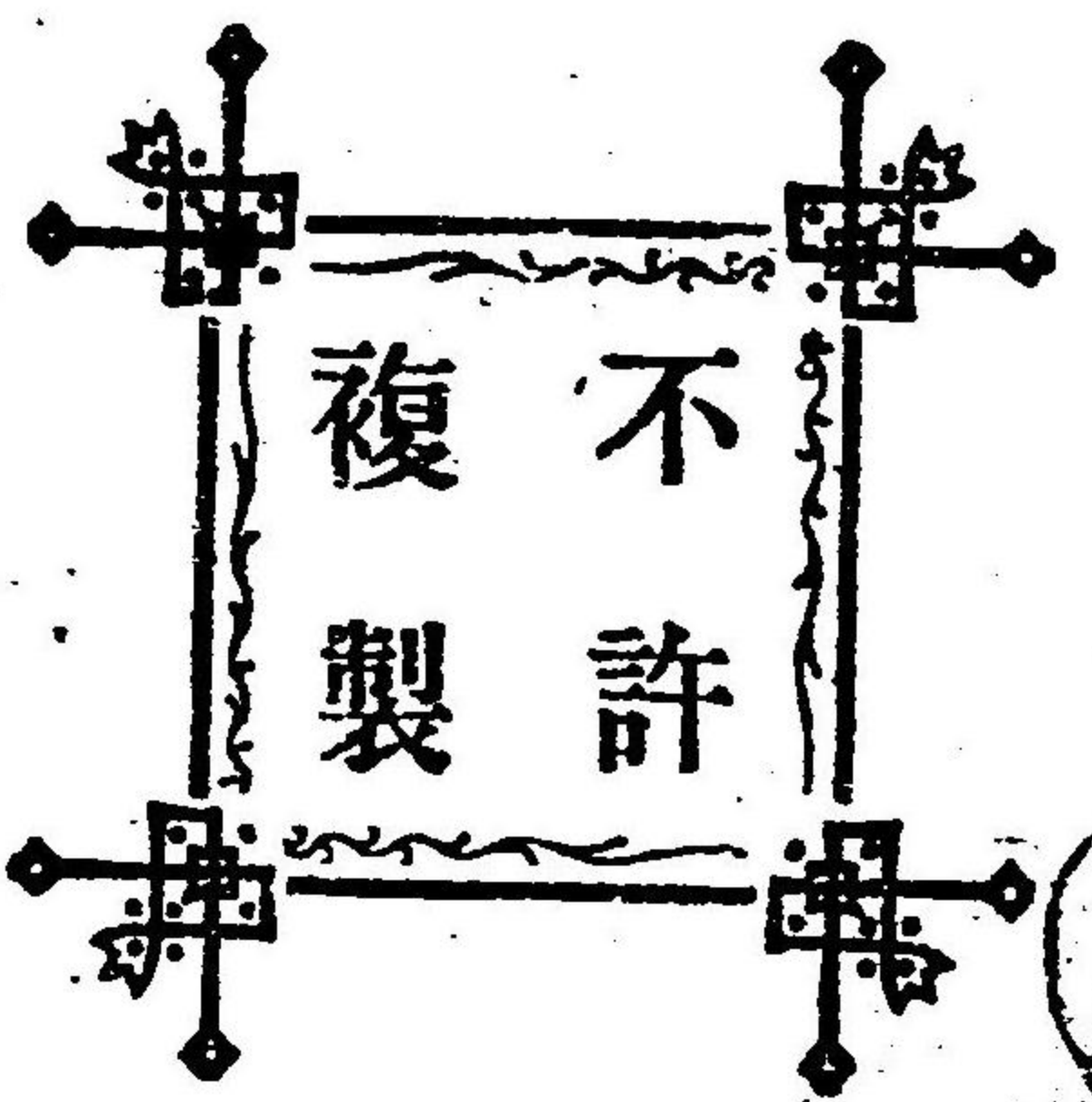
世界列國ノ間ニハ國際公法アリ萬國仲裁平和會アリ其旨義トスルトコロ可ナリ其目的トスルトコロ美ナリ然レトモ世界ハヨク此旨義此目的ニヨリテ司配得ベキカ蓋シ今日ノ狀態ニ於テハ遺憾ナガラ不能ト云フ可ノミ何ントナレバ人間ハ元來悉ク道德的ノモノニアラズ欲望アリ意志アリ而シテカアランニハ必ズ之ヲ實行セントス否實行セラレツ、アルナリ見ヨ嘗テ獨乙ノ一議場ニ於テ獨逸モ英吉利亞米利加等ト共ニ仲裁平和會ニ入會セバエルサス、ロー

トリンゲンノ二州ハ之ヲ佛蘭ニ返スベシトノ仲裁々判ヲ得タランニハ之ヲ彼ニ返附スベキヤトノ議ノ出タルトキノ議論ヲ見ヨ時ニ露國主相カプリフイーハ決然トシテ案ヲ拍チテ起チテ曰ク假令萬國仲裁會ガ我獨乙ニ向ヒテ此二洲ヲ佛蘭ニ返スヲ以テ正當ナリトノ裁決ヲ下スモ獨乙ハ斷乎トシテ斯ノ如キノ裁決ニ服シ之ニ從フコトヲ拒絕ス獨乙人ハ其生血ヲ濺クトモ決シテエルサス、ロートリンゲンノ二州ハ決シテ佛蘭國ニ返附スルコト能ハサルナリ嗚呼仲裁平和會茲ニ至リテ何ノ効力カアル所謂道德ナルモノ既ニ眼中ニナク國法公法タマコレ空文空章タルノミ記シテ茲ニ至レハ國際上ノ出來事ハ全ク權力ニヨルノミ乃チ權力ノ強大ナルモノハ強大ナル權利ヲ有スルモノナルコトマタ言フ俟タザルナリ生物ニ生存

競争アリテ優者マス、優ナルガ如ク國家モマタ生存競争アリテ
強者マス、強ナリ是ニ於テカ各國皆兵カラ養ヒ軍備ヲ大ニシテ
ト其究極スルトコロヲ知ラザルモノ、如シブレックス將軍ノ所謂
世界ハ強者ノ世界ナリトハ今モナキ其真理タルヲ免カレザル也噫

新撰西洋史問答終

明治三十五年三月廿五日印刷
同 年 日發行



新撰西洋史問答
正價金拾五錢

編者 岡野英太郎
東京市神田區美土代町三丁目二番地
發行者 富田能次
東京市神田區千代田十三番地
發行者 魚住嘉三郎
東京市淺草區藏前片町十番地
印刷者 手塚國太郎

發行所

東京市神田區 美土代町三丁目 富田文陽堂
東京市神田區 千代田十三番地 魚住書店

423
6

岡野英太郎編纂

新撰歷史問答

正價十五錢

岡野英太郎編纂

新撰地理問答

正價十五錢

岡野英太郎編纂

新撰東洋史問答

正價十五錢

岡野英太郎編纂

新撰數理問答

正價十五錢